

平成二十一年度 全国学力・学習状況調査

解説資料 小学校 国語

平成二十一年四月

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

はじめに

平成二十一年度全国学力・学習状況調査は、小学校第六学年及び中学校第三学年の原則として全児童生徒を対象に、四月二十一日に実施されました。

調査の目的は、①国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、②各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること、③各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることです。

調査の内容は、教科に関する調査（国語と算数・数学）と生活環境や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒対象と学校対象）があり、教科に関する調査は、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題の二種類からなります。

主として「知識」に関する問題は、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、②実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能などを調査するものです。また、主として「活用」に関する問題は、①知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、②様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を調査するものです。

国立教育政策研究所教育課程研究センターにおいては、調査問題の作成と調査結果の分析を担当しております。この調査を、児童生徒一人一人の学力や学習状況の把握はもとより、今後の指導や学習の改善に生かしていくことが重要であると考えています。このため、問題の作成に当たっては、学習指導要領に示されている内容が正しく理解されるよう留意するとともに、子どもたちに身に付けさせた力として重視されるものについての具体的なメッセージとなるように努めました。

本資料は、調査問題について出題の趣旨や正答・誤答の解説などをまとめたものです。各学校や教育委員会において、日常の学習指

導や教育施策の改善・充実に生かしていただければ幸いです。特に、学校においては、当該学年以外の先生方や当該教科以外の先生方を含めて学校全体で活用していただきたいと考えております。

最後に、本調査の実施に当たりご協力いただきました皆様、調査に参加していただいた教育委員会、学校の皆様、本資料の作成に当たりご協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

平成二十一年四月

国立教育政策研究所

教育課程研究センター長

中 岡 司

●本書の目的

本書は、平成二十一年度全国学力・学習状況調査の実施後速やかに、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることができるよう、教科に関する調査問題についての解説などをまとめたものである。

●本書の内容・構成

I 小学校国語科の調査問題作成に当たって

調査問題作成の方針として、調査問題の出題範囲、問題作成の枠組みなどについて解説した。

II 調査問題の解説

問題ごとに、出題の趣旨、正答とその解説などについて記述した。

1 出題の趣旨

問題ごとに把握する力やその意義、場面設定などについて解説した。

2 各設問について

設問ごとに正答及び誤答について解説した。

3 学習指導に当たって

問題と関連して、今後の学習指導において参考となる事柄を記述した。

4 出典等

著作物からの出題の場合、書名や著者名などを記述した。

III 調査問題等

調査問題、解答用紙及び正答（例）を掲載した。なお、著作権の都合により問題の一部を省略した。

※ 本調査においては、障害のある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒に対して、点字問題、拡大文字問題、総ルビ付き問題を用意した。

なお、点字問題については、問題が一部異なっており、本書ではその部分を掲載した。

(後ろから見るページ)

1 調査問題一覧表

問題の概要、出題の趣旨、学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式を一覧表にまとめた。

2 解答類型

解答類型とは、各設問についての正答・予想される誤答・無解答などの解答状況を分類し整理したものである。

正答については、設問の趣旨に即して解答として求める条件を定め、その条件をすべて満たしているものを◎で表し、設問の趣旨に即し必要な条件を満たしているものを○で表した。

なお、解答類型には次のように番号を付けた。

類型1～類型8(最大) …… 正答・予想される誤答の類型

(複数の類型が正答となる問題もある。)

類型9 …… 「上記以外の解答」(類型1から類型

8までに含まれない解答。)

類型0 …… 「無解答」(解答の記入のないもの。)

3 質問紙調査項目(教科関連部分)

質問紙調査項目のうち、小学校国語科の教科に関する項目を掲載した。

目 次

<p>I 小学校国語科の調査問題作成に当たって …………… 7</p> <p>II 調査問題の解説</p> <p style="padding-left: 2em;">A 主として「知識」に関する問題 …………… 13</p> <p style="padding-left: 4em;">1 漢字を読んだり書いたりする …………… 14</p> <p style="padding-left: 4em;">2 ローマ字を読んだり書いたりする …………… 16</p> <p style="padding-left: 4em;">3 はがきを書く …………… 18</p> <p style="padding-left: 4em;">4 実験報告文を書く …………… 20</p> <p style="padding-left: 4em;">5 表現の工夫をとらえる …………… 22</p> <p style="padding-left: 4em;">6 段落の内容をとらえる …………… 24</p> <p style="padding-left: 4em;">7 話し合いを計画的に進める …………… 26</p> <p style="padding-left: 4em;">8 一文を二文に分ける …………… 28</p> <p style="padding-left: 4em;">9 毛筆で書く …………… 30</p> <p style="padding-left: 2em;">B 主として「活用」に関する問題 …………… 33</p> <p style="padding-left: 4em;">1 調査報告文を書く〈小学生の体力〉 …………… 34</p> <p style="padding-left: 4em;">2 表をもとに話し合う〈家の中のそうじや整とん〉 …………… 38</p> <p style="padding-left: 4em;">3 自分の考えをまとめるために読む〈マナーやルール〉 …………… 42</p> <p style="padding-left: 4em;">4 図を使って説明する〈バスケットボールの作戦〉 …………… 46</p> <p>III 調査問題等 …………… 51</p> <p style="padding-left: 2em;">国語A (主として「知識」に関する問題) …………… 53</p> <p style="padding-left: 2em;">国語B (主として「活用」に関する問題) …………… 65</p> <p style="padding-left: 2em;">解答用紙 …………… 81</p> <p style="padding-left: 2em;">正答(例) …………… 85</p> <p style="padding-left: 2em;">点字問題(抜粋) …………… 87</p>	<p style="text-align: right;">(後ろから見るページ)</p> <p style="text-align: right;">1 調査問題一覧表 …………… 1</p> <p style="padding-left: 2em;">A 主として「知識」に関する問題 …………… 2</p> <p style="padding-left: 2em;">B 主として「活用」に関する問題 …………… 3</p> <p style="padding-left: 2em;">2 解答類型</p> <p style="padding-left: 4em;">A 主として「知識」に関する問題 …………… 5</p> <p style="padding-left: 4em;">B 主として「活用」に関する問題 …………… 11</p> <p style="padding-left: 4em;">点字問題部分 …………… 17</p> <p style="padding-left: 2em;">3 質問紙調査項目(教科関連部分) …………… 19</p>
--	--

I 小学校国語科の調査問題作成に当たって

1 調査問題の基本的な枠組み

小学校国語科の調査問題は、「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（平成十八年四月）の問題作成の基本理念を基本的な枠組みにしている。

○身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにしていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）

○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など（主として「活用」に関する問題）

この二つの出題範囲・内容からも明らかのように、基本理念には、「実生活」に立脚する学力が含まれている。これは、学校で学習してきた知識・技能等が、児童を取り巻く様々な生活場面において、活用できるようにすることが求められているからである。児童にとつての「実生活」は、学校における教科等の学習に加え、家庭生活や地域での生活を含めたものである。国語の側面から考えると、読書などに親しむ生活（読書生活）、音声や文字で表現する生活（表現生活）など、言語生活を重視することが求められる。

また、報告書では、調査問題自体が学校の教員や児童に対して、土台となる基盤的な事項を具体的に示すとともに、教員による指

導改善や児童の学習改善・学習意欲の向上などに役立つことを重視している。国語科の調査問題においては、次のような観点を盛り込むことや工夫することが考えられる。

○主として「知識」に関する問題

- ・描写、要約、紹介、説明、記録、報告、対話、討論などの基礎的な言語活動に関すること
- ・表現したり理解したりするための言語事項の基礎的な知識・技能に関すること
- ・我が国の言語文化に親しむ内容に関すること など

○主として「活用」に関する問題

- ・日常生活や社会生活で必要とされる読書・鑑賞・創作などの言語活動の活用に関すること
- ・文章を読んで筆者の主張の内容やその表現方法などを評価すること
- と
- ・伝えたい内容をまとめ表現すること
- ・様々なメディアを活用することによって課題を多角的に探究すること など

さらに、国際的、科学的視点から質の高い調査問題の開発が期待されている。そこで、OECD（経済協力開発機構）によるPISA調査の概念的な枠組みの基本である主要能力（キーコンピテンシー）の考え方や多様なテキスト、出題の仕方なども参考にすることにした。

このような考え方にに基づき、出題の範囲・内容は、国の教育課程の基準としての小学校学習指導要領国語（平成十年告示）の目標及び内容によるものとした。なお、調査時期が第六学年の四月であるので、第五学年の終了段階において習得すべき指導内容を出題範囲とした。

2 調査問題の出題範囲・内容

(1) 学習指導要領の指導内容

調査問題は、小学校学習指導要領国語（平成十年告示）の目標及び内容に基づき、第五学年終了段階における基盤的な内容とした。具体的には次のような内容である。

■A 話すこと・聞くこと

- ・話すことに関する指導事項
- ・聞くことに関する指導事項
- ・話し合うことに関する指導事項

■B 書くこと

- ・目的意識・相手意識、自分の考えに関する指導事項
- ・取材に関する指導事項
- ・構成に関する指導事項
- ・記述に関する指導事項
- ・推敲・評価に関する指導事項

■C 読むこと

- ・読書的な読むことに関する指導事項
- ・叙述内容に即した読むことに関する指導事項
- ・想像的な読むことに関する指導事項
- ・事象と感想、意見にかかわる読むことに関する指導事項
- ・目的的な読むことに関する指導事項
- ・声に出して読むことに関する指導事項

■言語事項

① 言語に関する指導事項

- ・発音・発声に関する事項
 - ・文字に関する事項
 - ・表記に関する事項
 - ・語句に関する事項
 - ・文語調の文章に関する事項
 - ・文及び文章の構成に関する事項
 - ・言葉遣いに関する事項
- ##### ② 書写に関する指導事項

なお、調査問題は、前述の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に即して、二つの冊子を作成した。「国語A」を「主として『知識』に関する問題」の冊子とし、解答時間として二十分を配当した。「国語B」は、「主として『活用』に関する問題」の冊子として四十分を配当した。

(2) 主として「知識」に関する問題の内容

「国語A」で出題した内容や趣旨は、次のとおりである。

問題 番号	問題の内容	関連する主 な指導内容	出題の趣旨
①	漢字を読んだり書いたりする	言語事項 (1)ア(ア)	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりする。
②	ローマ字を読んだり書いたりする	言語事項 (1)イ(ウ)(第三・四学年)	ローマ字で表記されたものを正しく読んだり、ローマ字で書いたりする。
③	はがきを書く	書くこと ア・イ(第三・四学年)	はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書く。
④	実験報告文を書く	書くこと イ・ウ	文章の内容に合わせて、小見出しを書く。

⑤	表現の工夫をとらえる	読むことウ 言語事項 (1)ウ(エ)	文学的な文章の表現の工夫をとらえる。
⑥	段落の内容をとらえる	読むことイ	段落の内容を的確にとらえる。
⑦	話し合いを計画的に進める	話すこと・ 聞くことウ	司会の役割や働きをとらえて、話し合いを計画的に進める。
⑧	一文を二文に分ける	言語事項 (1)オ(ウ)(第三・四学年)	文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。
⑨	毛筆で書く	言語事項 (2)ア(ア)	文字の大きさや配列に注意して書く。

このように、学習指導要領の三領域一事項にわたって出題した。

(3) 主として「活用」に関する問題の内容

「国語B」で出題した内容や趣旨は、次のとおりである。

問題番号	問題の内容	関連する主な指導内容	出題の趣旨
1	調査報告文を書く 〈小学生の体力〉	書くこと ア・イ・エ	目的や意図に応じて、必要な事柄を整理し、事象や意見などを関係付けて書く。
2	表をもとに話し合う 〈家の中のそうじや整とん〉	話すこと・聞くこと イ・ウ	互いの立場や意図を明確にして話し合う。
3	自分の考えをまとめるために読む 〈マナーやルール〉	読むこと イ・エ・オ	目的や意図に応じて、効果的な読み方を工夫し、自分の考えをまとめる。
4	図を使って説明する 〈バスケットボールの作戦〉	話すこと・聞くこと ア 言語事項 (1)エ(ア)(第一・二学年)	目的や意図に応じて、話の組立てを工夫しながら、図を使って説明する。

このように、まとまった言語活動の中で知識・技能等を活用できるかどうかをみるために、三領域一事項の中から複数の指導内容を含めて取り上げた。

3 問題形式

問題形式については、次の三種類とした。

○選択式：数種の項目群の中から適切な項目を選択する方式である。

○短答式：短い語句や文、または数値等で解答する方式である。文章や資料からの情報の取り出しなどである。

○記述式：相手や目的、意図に応じて自分の意見や提案、理由や根拠、紹介や報告などをまとめ、一定以上の文字数で記述する方式である。

記述式の問題では、知識・技能等を生かし、相手や目的、意図、場面や状況などに応じて言語を操作したり運用したりする活用の能力をみる。「書くこと」の問題に加え、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の問題においても記述式を採用した。

(1) 「話すこと・聞くこと」における記述

「話すこと・聞くこと」の指導においては、スピーチ原稿やインタビュー記録など、話すことや話したことを記述したり、聞いたことを記述したりする力を高めることが大切である。

例えば、「国語B」の問題②「表をもとに話し合う〈家の中のそうじや整とん〉」の設問二や、問題④「図を使って説明する〈バスケットボールの作戦〉」の設問二は、「話す・聞く能力」を問う

ものである。問題②では、話合いの流れを踏まえ、自分の立場や意図を明確にして発表する内容、問題④では、全体を見通して必要な事柄を明確にし、事柄の相互の関係を整理しながら説明する内容を記述するようにした。

(2) 「書くこと」における記述

「書くこと」の指導においては、礼状や依頼状、生活文や意見文、紹介文、観察記録文や体験報告文など、様々な様式に応じた記述力を高めることが大切である。特に第五・六年年において記録や報告などをまとめる場合、経験した事実等を客観的に記述するとともに、経験等を通して考えたことや得たことなどを明確にして記述することなどが必要となる。

例えば、「国語B」の問題①「調査報告文を書く（小学生の体力）」の設問②は、「書く能力」を問うものである。ここでは、報告文を書く目的に応じて、調べて分かった結果と調べた理由とを関係付けて記述するようにした。

(3) 「読むこと」における記述

「読むこと」の指導においては、読んだことや調べたことを要約したり、感想をまとめたり、評価したりする記述力を高めることが大切である。読むプロセスにおいては、精読段階で要約したり、読後に読書感想を短文や長文にまとめたりする。また、文章の解釈について具体的な理由や根拠を示したり、主題や要旨について自分の考えを記述したりする場合もある。

例えば、「国語B」の問題③「自分の考えをまとめるために読

む（マナーやルール）」の設問②は、「読む能力」を問うものである。ここでは、筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりして記述するようにした。

4 評価の観点について

評価の観点については、国語科で行われている「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」の五つの観点を用的ことにした。

なお、国語への関心・意欲・態度の観点については、各設問で取り上げた実際の授業場面や実生活での活用場面などにおいて、その観点が深く関与している場合に設定した。

Ⅱ 調査問題の解説

A 主として「知識」に関する問題

1 漢字を読んだり書いたりする

1

一 次の(1)から(3)までの文の——部の漢字の読みをひらがなで書きましよう。

(1) 駅は 混雑 している。

(2) 春から夏へ季節が 移る。

(3) めずらしい植物を 採集 する。

二 次の(1)から(3)までの文の——部のひらがなを漢字でていねいに書きましよう。

(1) びょういん に行く。

(2) 人の意見に さんせい する。

(3) 重い石を はこぶ。

1 出題の趣旨

学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみる。

第五学年までに学習した漢字を文脈に合わせて適切に読み、正しく書く問題である。

ここでは、日常生活の中で使われる漢字を選び、意味を考えながら読んだり書いたりするように出題した。出題する漢字については、その定着状況をみるために、第五学年の配当漢字のみならず、第三学年(「集」)、「病」、「院」、「運」)や第四学年(「成」)の配当漢字も取り上げた。

漢字を正しく読み、書く力は、表現したり理解したりするために必要な基礎的な知識や技能であり、漢字を含む語彙の拡充を図るためにも重要である。また、各教科等の学習の基盤であり、日常生活に欠かせない知識や技能となる。

■学習指導要領の領域・内容

言語事項(第五・六学年)

(1) ア 文字に関する事項

(ア) 第五学年及び第六学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

2 各設問について

設問一

(1) 正答について

■正答

- (1) こんざつ
 (2) うつ(る)
 (3) さいしゅう

設問二

(1) 正答について

■正答

- (1) 病院
 (2) 賛成
 (3) 運(ぶ)

3 学習指導に当たって

(1) 文脈に合わせて適切に漢字を使う

文脈に合わせて、漢字を正しく読んだり書いたりできるようにすることが必要である。そのためには、漢字に対する興味・関心を高め、漢字が果たしている役割や働きをpushしながら、文や文章の中で適切に漢字を使えるように指導することが大切である。

(2) 語彙力を高める

学年が進むにつれて漢字を使用する機会を増やし、語彙力を高めることが大切である。そのためには、既習の漢字を正しく使用する習慣を付けたたり、振り仮名が付いた漢字を提示する機会を増やしたりすることなどが必要である。また、漢字の由来や特質に

ついて理解し、日常生活の中でどのように使われているかを調べなどの学習を通して、児童の興味・関心を高めながら語彙の拡充を図ることが重要である。

(3) 国語辞典や漢字辞典を利用する

漢字を正しく読んだり書いたりするためには、小学校学習指導要領国語の第五・六学年における「言語事項」の「表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けること」と関係付けた指導が重要である。国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても、積極的に辞書を利用できるようにすることが大切である。

(参考) 過去の調査における正答率

設問	実施年度(実施学年)	正答率(%)
設問一(1)	平成十五年度(五学年)	九二・五
設問一(2)	平成十六年度(五学年)	八一・三
設問一(3)	平成十六年度(五学年)	七一・一
設問二(1)	昭和三十九年度(五学年)	四〇・四
設問二(2)	昭和三十一年度(六学年)	三〇・一
設問二(3)	平成十三年度(五学年)	八三・八

※過去の調査

- 昭和三十一年度全国小学校学力調査
- 昭和三十九年度全国小学校学力調査
- 平成十三年度小中学校教育課程実施状況調査
- 平成十五年度小・中学校教育課程実施状況調査
- 平成十六年度特定の課題に関する調査

2

ローマ字を読んだり書いたりする

次の1と2の言葉を、例のように、ローマ字でていねいに書きましょう。また、3のローマ字の読みをひらがなで書きましょう。

(例) (いぬ)

⇒ inu

1 (くすり)

⇒

2 (たべもの)

⇒

3 happa

⇒ ()

※解答は、解答用紙に書きましょう。

1 出題の趣旨

ローマ字で表記されたものを正しく読んだり、ローマ字で書いたりすることができるかどうかをみる。

ローマ字の音節の表し方を理解し、ローマ字で表記された身近な単語を正しく読んだり書いたりする問題である。

ここでは、児童が日常使う簡単な単語を取り上げ、ローマ字を読んだり書いたりするように出題した。また、清音だけでなく、濁音や促音も取り上げた。

ローマ字を学習することによって、ローマ字を読んだり書いたりすることができるようになるだけでなく、日本語の音節が子音と母音を用いていることを意識できるようになる。日常生活においても、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを見たり、コンピュータを使ったりする機会が増えるなど、ローマ字は児童の生活に身近なものになってきている。

■学習指導要領の領域・内容

言語事項(第三・四学年)

(1) イ 文字に関する事項

(ウ) 第四学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

※小学校学習指導要領国語(平成二十年告示)においては、ローマ字の指導は、情報機器の活用や他の学習活動などとの関連を考慮し、現行の第四年から第三学年に移行している。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

2 各設問について

(1) 正答について

■正答

- 1 kusuri
- 2 tabemono
- 3 はっぱ

3 学習指導に当たって

(1) ローマ字の規則性を押さえる

ローマ字には、ヘボン式や訓令式などがあることに配慮しながら、ローマ字表を使って仮名五十音と対応した指導をすることが大切である。特に、母音と子音を基礎とした五十音表の規則性を押さえる必要がある。また、濁音、半濁音、長音、拗音、促音、撥音などについても、音声と関係付けながら規則性があることに気付かせ、身に付けていくことができるような指導をすることが大切である。

(2) 生活の中で、進んで読んだり書いたりする

ローマ字の指導については、小学校学習指導要領国語において第四学年で取り扱うことにしている。ここで学習したローマ字の読み方や表記の仕方を確実に習得するために、様々な学習や生活においてローマ字を使うようにすることが大切である。例えば、コンピュータを使ってローマ字で入力するときなど、語や文、文章を作る学習を設定し、繰り返し取り組むことができるようにすることが考えられる。

3 はがきを書く

3 小林さんは、転校していった友達にはがきを書くことにしました。はがきの表に名前や住所を書きます。次のア・イ・ウ・エの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

郵便はがき

- 1 自分の名前
- 2 相手の名前
- 3 自分の住所
- 4 相手の住所

1 出題の趣旨

はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書くことができるかどうかをみる。

はがきの表書きに必要な相手の住所と名前、自分の住所と名前を正しい順序で選択する問題である。

ここでは、転校していった友達にはがきを書く場面を設定した。はがきが相手に確実に届くようにするためには、はがきの表に右側から縦書きで「相手の住所」、「相手の名前」、「自分の住所」、「自分の名前」の順序で書く必要がある。

小学校学習指導要領国語における「書くこと」の言語活動例では、第一・二学年で「伝えたい事を簡単な手紙などに書くこと」、第三・四学年で「手紙を書くこと」、第五・六学年で「礼状や依頼状などの手紙を書くこと」が取り上げられている。特に、第三・四学年では、手紙の形式を取り上げて表書きに宛て名や住所を正しく書く指導が必要である。

■学習指導要領の領域・内容

B 書くこと(第三・四学年)

ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。

イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。

言語活動例(第三・四学年 B書くこと)

手紙を書くこと

■評価の観点

書く能力

2 各設問について

(1) 正答について

■正答

ア 4

イ 2

ウ 3

エ 1

■解説

○はがきの表には、右側から縦書きで「相手の住所」、「相手の名前」、「自分の住所」、「自分の名前」の順序で書く必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○「相手の住所」、「相手の名前」、「自分の住所」、「自分の名前」の四つのうち一つでも異なるものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 形式に合わせて書く

はがきの表には、相手の住所と名前、自分の住所と名前を書く必要がある。表書きに必要なこれらの事柄に注意しながら、文字の大きさや位置などを意識して書くように指導することが大切である。また、はがきのみならず、封書においても、表や裏に必要な事柄を適切に書く必要がある。その際、正しい形式で書かなければ相手に届かないことを理解できるようにすることが重要である。

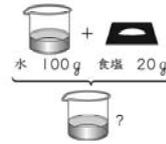
(2) 相手や目的に合わせて手紙を書く

実用的な文章として、依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くことが大切である。手紙を書くことは、特に相手や目的をはっきりと意識できる言語活動である。親しい知人に対して連絡をするような場面から、学校行事等でお世話になった人に対してお礼をするような場面まで、様々な相手や目的に応じて、実際に手紙を書く活動を設けることが重要である。

【実験報告文の一部】

(1) 調べたこと
水にとかした食塩の重さはどうなるかを調べた。

- (2) **ア**
- ① 水 100 g をはかりとる。
 - ② 食塩 20 g をはかりとる。
 - ③ 食塩 20 g を水 100 g に入れてとかし、できた食塩水の重さをはかる。



(3) **イ**
食塩は、水にとけると重さがなくなってしまうので、食塩水全体の重さは、100 g になるのではないか。

(4) **ウ**

とかず前の重さ		とかした後の重さ	
水	100 g	食塩水全体の重さ	
食塩	20 g		
全体の重さ	120 g	120 g	

食塩を水にとかず前の全体の重さと、食塩を水にとかした後の食塩水全体の重さは、どちらも 120 g だった。

(5) 考えたこと
食塩は、水にとけてもその重さはなくならないと考えた。

ア	1 目的	2 注意	3 方法
イ	1 準備	2 予想	3 条件
ウ	1 評価	2 結果	3 想像

南田さんは、水にとかした食塩の重さについて実験をし、報告文を書きました。報告文の中に小見出しを書きました。小見出しとして、その番号を書きましよう。

1 出題の趣旨

文章の内容に合わせて、小見出しを書くことができるかどうかをみる。

実験報告文の内容に適した小見出しを選択する問題である。

ここでは、食塩を水に溶かしたときの重さについてまとめた報告文の内容に合わせて小見出しを書く場面を設定した。科学的な実験報告文の項立てとして、「課題」、「実験方法」、「予想」、「結果」、「考察」などがある。これらは、内容を要約して短い言葉で表現した小見出しである。読み手に全体の構成や内容を効果的に伝えるために適切な小見出しを書くことが求められる。

平成二十年度全国学力・学習状況調査（以下、平成二十年度調査という）「国語A」の問題⑧「小見出しを書く」では、自分の学校を紹介する文章の内容に合わせて小見出しを書く場面を取り上げた。今回は、実験や観察に関する文章の内容に合わせて小見出しを書く問題にした。

■学習指導要領の領域・内容

B 書くこと（第五・六学年）

イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。

ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。

言語活動例（第五・六学年 B 書くこと）

経験した事をまとめた記録や報告にすること

■評価の観点
書く能力

2 問題について

(1) 正答について

■正答

ア 3

イ 2

ウ 2

■解説

○実験したことを「調べたこと」、「方法」、「予想」、「結果」、「考えたこと」の五つの項目に分けて構成した実験報告文である。各項目に記述された内容をとらえ、適切な小見出しを書く必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○報告文の各項目の内容と合っていない小見出しは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 報告するために必要な事柄を収集し整理する

報告文を書くためには、課題の設定から考察までの全体を見通すことが大切である。まず、実験や観察したことを報告するためには、その結果などを正確にメモしておく必要がある。そして、課題や予想に合わせて、報告する内容を整理しながら、事実や考察などを区別する必要がある。さらに、小見出しを付ける際には、全体の構成や内容を効果的に伝えるために適切かどうかを検討することが大切である。

(2) 目的や意図に応じて効果的に書く

まとまった記録文や報告文を書く際には、実験や観察、調査などの事実を客観的に記述するだけでなく、それらの経験を通して考えたことや得たことなどを、明確に記述するよう指導することが重要である。また、目的や意図に応じて図表やグラフなどの資料を効果的に使うことなども重要である。

(3) 様々な様式や書式に即して書く

小学校学習指導要領国語の第五・六学年における「書くこと」の言語活動例では、「経験した事をまとまった記録や報告にすること」が取り上げられている。報告文には、実験報告文のほかに、体験したことをまとめる体験報告文や調べたことをまとめる調査報告文など、多様な様式や書式がある。様々な様式や書式についての知識を増やし、国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても、実際に書く活動の充実を図る必要がある。

5 表現の工夫をとらえる

5 次は、お菓子をつくっている美奈を主人公にして書かれた物語の一部です。文章の表現のくふうについて説明したものとして、もっともふさわしいものをあとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

美奈は悲鳴をあげた。スポンジケーキが焼きあがるはずだったのに、オーブンからでてきたものはまっ黒な炭だったからだ。
美奈は、このごろ日曜日にはお菓子づくりに専念している。先週はクッキーを焼いた。できあがったものは、みように歯にくっつくクチャクチャしたガムのようなものだった。そのまえの週は、ドーナツをあげた。おいしそうなきつね色にあがったのに、中は空洞だった。そのまえは、プリンをつくった。ポソポソとしたスポンジみたいだった。それもこれも、今年のクリスマスには、友だち同士で手作りのお菓子をもちよって、パーティーをすることになったからだ。まったくだれがいいだしたんだろう。わたしではなかった。美奈は、ため息をついた。

(お菓子づくり「大おばさんの不思議なレシピ」による)

「表現のくふう」

- 1 美奈と友だちとの関係が分かるように、それぞれの性格や考え方を書いている。
- 2 美奈が体験したことを、ほかの登場人物に対して語りかけるように書いている。
- 3 美奈が取り組んだお菓子づくりのことを、つくった順序のとおりに書いている。
- 4 美奈がお菓子をつくるたびに失敗してしまふ様子を、たとえを使って書いている。

1 出題の趣旨

文学的な文章の表現の工夫をとらえることができるかどうかをみる。

主人公の行動や心情を描写した文章を読み、表現の工夫として適切なものを選択する問題である。

ここでは、表現の工夫として比喩を取り上げた。主人公の美奈が取り組んだお菓子づくりの失敗の様子を表した比喩表現をとらえることが求められる。

文学的な文章及び説明的な文章の表現の工夫には、比喩や反復をはじめとして様々なものがある。学年が進む中で、多様な文章に表れる表現の工夫に気付いたり、自分の表現に活用したりすることが重要になる。これは、中学校学習指導要領国語の第二・三学年における「読むこと」の「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」に発展する指導内容である。

■学習指導要領の領域・内容

C 読むこと(第五・六学年)

ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

言語事項(第五・六学年)

- (1) ウ 語句に関する事項
- (エ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもちこと。

■評価の観点

読む能力

言語についての知識・理解・技能

2 問題について

(1) 正答について

■正答

選択肢 4 美奈がお菓子をつくるたびに失敗してしまう様子を、たとえを使って書いている。

■解説

○主人公の美奈が回想しているお菓子づくりの失敗の様子について、「ガムのような」「スポンジみたいな」という比喩表現が使われていることに気付く必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○選択肢 1 ↓本文では、友だちの性格や考え方についての言及はなく、美奈との関係が分かるようには書いていないので誤答である。

○選択肢 2 ↓本文では、ほかの登場人物に語りかけるようには書いていないので誤答である。

○選択肢 3 ↓本文では、実際にお菓子をつくった順序のとおりに書いているので誤答である。

3 学習指導に当たって

(1) 表現の工夫に気付き、優れた叙述を味わいながら読む

第五・六学年では、文学的な文章を読む指導において、登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述をとらえることが重要である。内容を理解するだけでなく、表現のよさや表現の効果などを児童自らが感じ取って、鑑賞しながら読むようにする必要があるので。主観に偏らず、文章の構成や表現の仕方に着目しながら、意見や感想を交流したり、評価したりすることで、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことが大切である。

(2) 語感や言葉の使い方に対する関心を高める

言葉のリズムや言葉の響き、語句の性質や役割を理解することが大切である。具体的には、比喩や反復をはじめ、擬声語・擬態語、誇張、倒置、省略など、表現の工夫についてとらえることが必要になる。そのためには、多様な文章に表れる様々な言葉の使い方の工夫に気付いたり、自分の表現に活用したりするような指導が大切である。多くの文章を繰り返して読んだり、優れた表現を音読したりして、語感や言葉の使い方に対する関心を高め、いくことが重要である。

4 出典等

○柏葉幸子『大おばさんの不思議なレシピ』（一九九三年七月偕成社）による。

6 「メモ」の「ア」の中に入るふさわしい内容を「図鑑の一部」の中の言葉を使って書きましよう。
 戸山さんは、植物が仲間を増やすための種子の移動について図鑑で調べ、メモに取りました。

【図鑑の一部】

タンポポの種子は、綿毛のかさを広げて風を待つ。このかさがかすかな風もとらえて種子を遠くへはこんでいく。着地すると種子をおおう細かなトゲが船の錨のようにはたらいて、種子を地面につなぎ止めるのだ。果物が熟れて甘くなるのも、植物の“領土拡大作戦”のひとつである。トリやサルなどの動物に食べさせて移動するやり方だ。消化されない種子がフンと一緒に出されて、やがてその場で芽を出す。

(ガリレオ工房「びっくりふしぎ 写真で科学④ 植物の素顔」による。)
 ※「錨」…船をとめておくために、水中にしずめておく鉄のおもり。



【メモ】

(種子の移動によって仲間を増やす方法)

- 一つめの方法
綿毛のかさがとらえる風によって種子を遠くへはこんでいく方法
- 二つめの方法
うれてあまくなった果物を 方法

1 出題の趣旨

段落の内容を的確にとらえることができるかどうかをみる。

説明的な文章の一部を読み、語句や文に着目して段落の内容を的確にとらえる問題である。

ここでは、図鑑の一部を読んで、調べたことを観点に即してメモに取る場面を設定した。目的や意図に応じて中心となる語句や文に着目し、内容を要約して書くことが求められる。

平成十九年度全国学力・学習状況調査(以下、平成十九年度調査という)、「国語A」の問題9及び、平成二十年度調査「国語A」の問題9においても段落の内容を把握することを取り上げた。今回は、目的に応じて説明的な文章を読み、内容を的確にとらえて要約して書く問題にした。

■学習指導要領の領域・内容

C 読むこと(第五・六学年)

イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。

言語活動例(第五・六学年 C読むこと)

自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読むこと

■評価の観点
読む能力

2 問題について

(1) 正答について

■正答例

○トリやサルなどの動物に食べさせて移動する

■解説

○種子の移動によって仲間を増やす方法について言及しているものを正答とする。一つめの方法として、「動物に」、「食べさせて」などの語句に着目していく必要がある。

(2) 誤答について

■解説

○書き出しの「うれてあまくなつた果物を」の語句に続かず文脈が整っていないものや、種子の移動によって仲間を増やす方法が不明確なものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 中心となる語や文をとらえて要約する

文章の一部、あるいは全体を要約するには、書かれている内容の中で繰り返される中心となる語や文に着目し、文相互の関係や段落相互の関係を押さえることが重要である。指導に当たっては、短い文章から長い文章へと発展し、目的や条件に応じた要約ができるようにすることが大切である。

(2) 目的や意図に応じて内容や要旨を的確にとらえる

目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることが大切である。要旨は、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄、あるいはそれについての書き手の考えなどである。要旨をとらえるためには、児童が目的意識をもって内容の中心や書き手の考えを読み取ることができるように指導することが必要である。

4 出典等

○ガリレオ工房『びっくりふしぎ 写真で科学④ 植物の素顔』(二〇〇三年十一月大月書店)による。(一部改変)

7 次は、谷川さんの学級で、地域の人たちとの交流会で行う劇の内容について話し合った様子
の一部です。――部は、司会者の進め方の良いところですか。どのようなところが良いか
説明しましょう。

【話し合いの様子の一部】

谷川 〓 (劇の内容について話し合っている) 〓
はい。ぼくたちの町に伝わる昔話がいいと思います。町に伝わる昔話なら、
地域のみなさんもぼくたちも楽しめるところからです。

花田 〓 (同じような意見が続く) 〓
わたしは、登場人物の多い話がいいと思います。みんなが登場して、地域の
みなさんに顔を覚えてもらいたいからです。

司会 〓 (同じような意見が続く) 〓
今、出されている案は、「町に伝わる昔話」と「登場人物の多い話」です。その
ほかにはありませんか。(しばらく時間をおく) なければ、この二つの案のどち
らにも合う題材を決めるということで、話し合いを進めてもいいですか。

全員 〓 (話し合いが続く) 〓
いいです。

1 出題の趣旨

司会の役割や働きをとらえて、話し合いを計画的に進めることができるかどうかをみる。

話し合いの中で、目的や流れに沿って出された意見を整理したり、次の議事へ進行したりする司会の役割や働きをとらえる問題である。ここでは、地域の人たちとの交流会で行う劇の内容について学級で話し合う場面を設定した。司会は、数名の意見を聞いた後、出された意見を整理して提示している。さらに、この後の話し合いの進め方を参加者全員に確認している。これらを司会の良いところとして説明することが求められる。

平成十九年度調査「国語B」の問題①「話し合いを計画的に進める」でも司会の役割を問う問題を取り上げた。話し合い活動は、国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても行われる。話し合いを円滑に進めていくために、司会の役割や働きは重要である。

■学習指導要領の領域・内容

- A 話すこと・聞くこと(第五・六学年)
ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度
話す・聞く能力

2 問題について

(1) 正答について

■正答例

○出された二つの意見を合わせて話し合いを進めていこうとしているところが良い。

○次に話し合う内容を全員に確かめて話し合いを進めていこうとしているところが良い。

■解説

○司会者の進め方の良いところとして、出された意見を整理し、二つの案を生かそうとしていること、次に話し合う内容について確認した上で進行しようとしていることなどが挙げられる。これらのうち、いずれもあるいは、いずれかを満たして説明しているものを正答とする。

(2) 誤答について

■解説

○条件のうちいずれも満たさないうで解答しているものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 様々な課題に応じて司会をする

司会としての役割を明確にし、話し合いの場面における様々な課題に応じるようにすることが必要となる。出された意見をどのように整理し、話し合いが滞ったときにどのように発言を促したらよいか、対立が起きたときにどのように処理するかなどについて具体的に指導することが大切である。また、少人数のグループで話し合う場を設定し、児童一人一人が司会を経験する機会を設けることなども重要である。

(2) 目的や流れに沿って話したり聞いたりする

話し合いの目的や流れに沿って、意見を発表したり、聞き取ったりすることが重要である。応答する力を高めるには、話し手の意図を考えながら、事実と意見との関係に注意して聞き取ったり、自分の意見との相違点や共通点を聞き分け、それに対する自分の考えを明確にしたりすることなどの指導が大切である。

8 六年生の高島さんは、五年生のときから入っている放送委員会のことを文章に書き直しました。読み直した後、④の文について、「だから」を使って二つの文に分けて書き直すことにしました。「だから」を使って二つの文に分けたときの前の文の終わりの七文字と後の文の始めの七文字を書き直しよう。

【文章の一部】

①放送委員会の役員を決める話し合いをした。②ぼくは、委員長を任されることになった。③新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

※解答は、解答用紙に書き直しよう。

。だから、

1 出題の趣旨

文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかをみる。

二つの内容が含まれている文を読み、接続語を使って二つの文に分けて書く問題である。

ここでは、学校生活で体験した出来事を書く場面を設定した。一つの文の中に主体となる「ぼく」がとらえた五年生の様子と、それについて「ぼく」が思ったことと二つの内容がある。この二つの内容を区分した上で、「だから」という接続語を使って二つの文に分けて書くことが求められる。

平成二十年度調査「国語A」の問題③「文章を推敲する」では、複数の中から、文意がとらえにくい長文を二つの文に分ける推敲を取り上げた。今回は、一文を簡潔に表現するために、接続語を使って、実際に二文に分けて書く問題にした。伝えたい内容を相手の的確に伝えるためには、文や文章の内容を論理的に関係付けた上で、必要に応じて適切な接続語を使って表現することが重要である。

■学習指導要領の領域・内容

言語事項（第三・四学年）

(1) オ 文及び文章の構成に関する事項

(ウ) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

2 問題について

(1) 正答について

■正答

○そうにしていた。(だから、)ぼくは、これま

■解説

○③の文には、二つの内容が含まれている。一つは、「五年生が不安そうにしていたこと」、もう一つは、「ぼくがこれまでの経験を生かして：教えてあげたいと思ったこと」である。この二つの内容を分けて書いているものを正答とする。

(2) 誤答について

■解説

○一つの文の中にある内容を二つに分けてとらえ、接続語の「だから」に続くように一文で書いていないものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 文や文章の構成に注意して書く

文や文章の構成については、学年の段階に応じた指導が大切である。接続語は、文章の論理的な関係を把握するために大切な役割を果たしている。主語・述語、修飾・被修飾の関係を的確に表すだけでなく、順接や逆接等の接続語を適切に使うようにすることが重要である。

第五・六学年では、文の構造として、単文、重文、複文などがあることについて理解できるようにすることが大切である。そのためには、一つの内容を一つの文に簡潔に書いたり、必要に応じて二つ以上の内容を一つの文にまとめて書いたりする指導が大切である。また、それとは逆に、二つ以上の内容が含まれた一文を内容ごとに一文ずつに分けて書いたり、箇条書きにしたりするなど言語を操作する指導も大切である。

(2) 伝えたいことを明確にする

児童が文章を書くとき、「…で」などの接続助詞を多用するために、一文が長くなり、意味内容が伝わりにくくなることもある。自分が伝えたいことを明確にし、接続語や文末の表現を工夫しながら簡潔に伝えることができるように指導することが必要である。

9 次は、本問さんが毛筆で書いた下書きです。これを、「ア 文字の大きさ」、「イ 文字と文字の間」、「ウ 文字と行の中心」の三つの点から見直して清書をします。ウについては、どのよう
 うに書き直しますか。あとの の中に入るふさわしい内容をアとイの書き方と同じ
 ように書きましょう。

〔下書き〕

時 間 を 守 ろ う

※ ……は、行の中心を表しています。

- ア 文字の大きさ
「を」、「ろ」、「う」が漢字と同じくらいの大きさになっているから、漢字より少し小さくする。
- イ 文字と文字の間
「時」と「間」との間があきすぎているから、ほかの文字と文字との間と同じようにする。
- ウ 文字と行の中心

※解答は、解答用紙に書きましょう。

から、行の中心に合わせてようにする。

1 出題の趣旨

文字の大きさや配列に注意して書くことができるかどうかをみる。

文字の大きさや配列に注意して下書きを見直し、書き直す部分とその理由とを指摘する問題である。

ここでは、毛筆で書いた下書きを観点に即して見直し、清書する場面を設定した。観点としては、ア「文字の大きさ」、イ「文字と文字の間」、ウ「文字と行の中心」の三つを取り上げた。ア・イに記述した内容を基にして、ウの観点から書き直すところを指摘することが求められる。

国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても、目的や場面に応じ、文字の大きさや配列に注意して書くことは必要な能力である。

■学習指導要領の領域・内容

言語事項（第五・六学年）

- (2) ア 書写に関する事項
（ア）文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書くこと。

■評価の観点

言語についての知識・理解・技能

2 問題について

(1) 正答について

■ 正答例

○「守」の文字の中心が行の中心と合っていない

■ 解説

○書き直す文字として「守」を指摘し、文字と行の中心が合っていないことに触れて書いているものを正答とする。

(2) 誤答について

■ 解説

○条件を満たさないうで解答しているものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 文字の大きさや配列に対する意識を高める

書写の学習においては、姿勢や筆記具の持ち方、筆使い、筆順、字形、配列等を学年の段階に応じて指導することが大切である。第三・四学年では、文字↓語句↓文↓文章と活用の幅を広げながら、文字の大きさや配列に気をつけて書くことなどが必要である。第五・六学年では、文字の形、大きさ、配列を理解して書くことなどが必要である。漢字と平仮名の大きさのバランス、書き出しの位置、始筆の位置、行の中心と文字の中心、字間や行間などについて理解し、大きさや配列に注意して書く指導が重要である。

(2) 様々な学習の中で書写学習の内容を生かす

学校生活の中では、ポスターや新聞、パンフレット、案内状、礼状などを特定あるいは不特定の人に配布することがある。そのような様々な機会をとらえ、書写で学習したことを生かし、文字を正しく整えて書く指導が必要である。国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても、読み手のへの伝達効果を考えて書くなどの文字に対する意識を高めていくことが大切である。

調査問題の解説

B 主として「活用」に関する問題

調査報告文を書く〈小学生の体力〉

1 六年生の山中さんは、「小学生の体力は二十年前よりも低下した」という記事を読んで、興味をもちました。そこで、自分たちの小学校における五十メートル走の平均タイムの変化について調べ、次の報告文を書きました。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

五十メートル走の平均タイムの変化
第一小学校 六年 山中洋平

一 調べた理由

「小学生の体力は二十年前よりも低下した」という記事を見つけた。そこには、全国の小学校六年生の五十メートル走の平均タイムが下の「表」のようにまどめられていた。平成十九年のタイムが、二十年前の昭和六十二年よりもおそくなっていた。

【表】50メートル走の平均タイムの変化(全国の小学校6年生)

男子		女子	
昭和62年	平成19年	昭和62年	平成19年
8秒60	8秒91	8秒91	9秒19

二 調べた内容と結果

ぼくたちの学校でも同じだろうかという疑問がわいてきた。そこで、第一小学校の平均タイムの変化について調べ、記事と比べてみることにした。

第一小学校における六年生の五十メートル走の平均タイムの変化について、平成二十一年「現在」と、昭和六十二年(記事で取り上げられていた約二十年前)を取り上げて調べた。

◆平成二十一年の第一小学校六年生の平均タイム

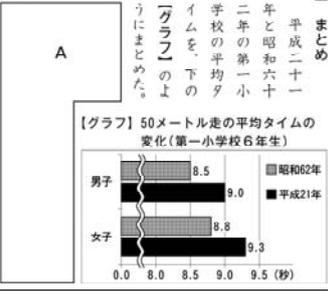
一つめとして、ぼくたち六年生の平均タイムを調べた。まず、体育の時間に学年全員の五十メートル走のタイムを計った。走った人数は、男女ともに三十五人ずつだった。次に、平均タイムを先生に出してもらった。平均タイムは、男子は九秒〇、女子は九秒三だった。

◆昭和六十二年の第一小学校六年生の平均タイム

二つめとして、昭和六十二年のぼくたちの小学校の六年生の平均タイムを調べた。学校図書館でさがしたが、データが見つからなかった。そこで先生に相談すると、先生がデータを見つけてくださった。平均タイムは、男子は八秒五、女子は八秒八だった。

三 まとめ

平成二十一年と昭和六十二年の第一小学校の平均タイムを、下の「グラフ」のようになどめた。



調査をきっかけに、もっと速く走れるようになるにはどうすればいいのだろうかを考えるようになった。これからも、体力や運動の仕方などに興味をもって、いろいろな本を読んで調べたり、積極的に運動に取り組んだりしたい。

(右下に続く)

(右下に続く)

(左上に続く)

一 次は、山中さんが調べる内容を書いたメモの一部です。報告文の「二 調べた内容と結果」を読んで、アの中に入るふさわしい内容を書きましょう。

【メモの一部】

◆平成二十一年の平均タイム

①

ア

◇ 日時 平成二十一年四月十五日 三時間目

◇ 場所 運動場

◇ 人数 男子三十五人 女子三十五人

◇ 準備 記録用紙、ストップウォッチ、コーン

② 平均タイムを先生に出してもらった

◆昭和六十二年の平均タイム

二 山中さんは、報告文の A の中に、調べて分かったことを書きました。あなたならどのような内容を書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

- 【条件】
- 第一小学校の六年生の平均タイムの変化が分かるように書くこと
 - 報告文の「一 調べた理由」に書かれた内容と結び付けて書くこと
 - 八十字以上百字以内にとめて書くこと

(メモ) ※左の専用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

100字 80字

1 出題の趣旨

目的や意図に応じて、必要な事柄を整理し、事象や意見などを関係付けて書くことができるかどうかをみる。

目的や意図に応じて資料を収集し、その中から必要な情報を選択した上で、それらに関係付けて自分の考えが伝わるように書く問題である。

ここでは、小学生の体力低下について興味をもち、自分たちの小学校の実態について調べて報告文を書く場面を設定した。報告文を書くために必要な材料をメモに書いたり、グラフを用いて自分の考えを効果的に書いたりすることが求められる。

国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても、様々な文章や表、グラフなどの資料から必要な情報を収集したり、報告文の種類や特徴に応じて自分の考えを表現したりする能力が必要になる。

平成二十年度調査「国語B」の問題③「情報を読み取って書く」では、「図書館だより」のグラフから分かったこととそれを基にして考えたことを書く問題を設定した。今回の設問二では、自分が調べて分かった結果と調べた理由とを関係付けて書く問題にした。

2 各設問について

設問一

(1) 趣旨

調べる内容を見通して、必要な事柄を整理することができるかどうかをみる。

報告文を書く目的に基づいて調査する内容を項目立てて整理し、メモに書く問題である。

本設問は、報告文の「二 調べた内容と結果」の「◆ 平成二十一年の第一小学校六年生の平均タイム」に書いている文章のもとになったメモの内容について、箇条書きの一つめの項目を書く場面を設定した。

■学習指導要領の領域・内容

B 書くこと(第五・六年)

イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。

■評価の観点

書く能力

(2) 正答について

■正答例

○体育の時間に学年全員の五十メートル走のタイムを計る

■解説

○報告文の「二 調べた内容と結果」の「◆ 平成二十一年の第一小学校六年生の平均タイム」に書いている文章の中の「一つめとして」、「まず」、「次に」などの語句に着目し、調べる内容の一つめの項目を箇条書きで書く必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○報告文としての構成をとらえられず、調べる内容として必要な事柄に触れていないものは誤答とする。

設問二

(1) 趣旨

目的や意図に応じて、事象や意見などを関係付けながら書くことができるかどうかをみる。

報告文を書く目的に応じて、調べて分かった結果と調べた理由とを関係付けて書く問題である。

本設問は、全国の小学校六年生の五十メートル走の平均タイムの変化と第一小学校の六年生の平均タイムの変化とを関係付け、字数などの条件に即して書くように設定した。

■学習指導要領の領域・内容

B 書くこと（第五・六学年）

ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。

エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

言語活動例（第五・六学年 B 書くこと）

自分の課題について調べてまとめた文章に表すこと

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度
書く能力

(2) 正答について

■正答例

○第一小学校の六年生の平均タイムは、男子も女子も昭和六十二年よりも平成二十一年の方がおそくなっていた。このことから、ぼくたちの学校でも記事と同じように、平均タイムがおそくなっていることが分かった。（九十七字）

■解説

○①第一小学校の六年生の現在の平均タイムと二十年前の平均タイムとの変化について触れていること、②第一小学校の六年生の調査でも記事に書かれていた全国の六年生の調査と似たような傾向が見られたことについて触れていること、③八十文字以上百字以内で書いていることの三つの条件を満たしているものを正答とする。報告文の「まとめ」として、調べた理由に合わせて分かったことを書く必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○条件のうち一部しか満たしていないもの、いずれも満たさないで解答しているものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 全体を見通して書く事柄を整理する

第五・六学年では、全体を見通して書く必要のある事柄を整理することが重要である。そのためには、目的や意図を踏まえて、事柄を収集、選択した上で、構成したり記述したりすることが必要である。また、記述の段階においては、必要に応じて書く事柄を再度収集していくことも大切である。

(2) 事実と意見とを区別して書く

報告文を書くためには、目的や意図に応じて調べ、事実に基づいて分かったことや考えたことを書く必要がある。そのためには、自分の意見の根拠となった事実と、自分の意見そのものとは区別して書く指導が大切である。

(3) 文章と資料とを関係付けて書く

調査をして自分の考えを伝えるためには、文章だけでなく、調べたことを図解したり、表やグラフを用いたりすることが効果的である。目的や意図に応じて、自分が考えたことを明確に表現するために、文章と資料とを関係付ける指導が必要である。

2 表をもとに話し合うへ家の中のそうじや整とん

2 川口さんの学級では、家族の一員としてできることを考えるために、家庭での過ごし方について調べました。次は、川口さんのグループが集めた資料をもとにした話し合いの様子の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

【資料】 家の中のそうじや整とんをする小学校6年生の割合

	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない	無回答など
平成16年	15%	52%	24%	9%	0%
平成17年	14%	48%	29%	8%	1%

(国立オリンピック記念青少年総合センター「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」による。)

司会 ここからは、川口さんたちが集めた「資料」をもとにして、「家の中のそうじや整とん」について話し合います。「資料」を見て分かったことや考えたことを発表してください。

川口 平成十六年を見ると、「いつもしている」人が少ないと思います。家の中のそうじや整とんはむずかしいことではないと思います。家族の一員としての自覚をもって、積極的に取り組むべきではないでしょうか。

松山 確かに、平成十六年の「いつもしている」は十五%しかいません。でも、「ときどきしている」を合わせると、六十七%もいます。むしろ、よく取り組んでいるほうだと思います。

司会 今、二人は、平成十六年の割合から考えた意見を出してくれましたが、平成十七年の割合からも考えてみてください。

村田 わたしは、平成十七年の「あまりしていない」と「まったくしていない」に注目しました。この二つを合わせると、三十七%にもなります。しかも平成十六年よりも増えているので、もっと取り組んだほうがいいと思います。

あなたの発表

ア

（話し合いが続く）

一 話し合いで出された意見を次の□の中にある二つに分けます。「川口・松山・村田」の三人は、それぞれA・Bのどちらの意見になりますか。□の中に、それぞれAかBのどちらかふさわしいほうを選んで書きましょう。

A 最近の小学校6年生は、家の中のそうじや整とんによく取り組んでいるという意見

B 最近の小学校6年生は、家の中のそうじや整とんにあまり取り組んでいないという意見

※解答は、解答用紙に書きましょう。

川口 □

松山 □

村田 □

二 あなたは、□アのところで、前のページの□にあるAの意見の立場から発表することになりました。あなたならどのような内容を発表しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

- 【条件】
- 平成十七年の割合(%)を取り上げること
 - 六十文字以上八十文字以内にとめて、発表するように書くこと

(メモ) ※左の原用紙は下書き用なので、使っても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。

80字 60字

1 出題の趣旨

互いの立場や意図を明確にして話し合うことができるかどうかをみる。

話し手の立場や意図に配慮しながら、自分の立場や意図を明確にして話し合う問題である。

ここでは、家族の一員としてできることを考えるために、資料から分かったことや考えたことを立場や意図を明確にして話し合う場面を設定した。進行に沿って発言した「川口」、「松山」、「村田」の三人の立場や意図を適切にとらえるとともに、自分の意見を持ち、根拠を示しながら話し合うことが求められる。

互いの立場や意図を明確にし、共通点や相違点を考えながら、計画的に話し合う能力や態度を育てることが大切である。

2 各設問について

設問一

(1) 趣旨

話し手の立場や意図をとらえて聞くことができるかどうかをみる。

出された意見を整理して、どの立場や意図であるかを選択する問題である。

本設問は、進行に沿って発言した「川口」、「松山」、「村田」の三人の意見を、A「最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整頓によく取り組んでいる」、B「最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整頓にあまり取り組んでいない」の二つに整理するように設定した。

■学習指導要領の領域・内容

A 話すこと・聞くこと（第五・六学年）

イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。

言語活動例（第五・六学年） A 話すこと・聞くこと

目的意識をもって友達の考えを聞くこと

■評価の観点

話す・聞く能力

(2) 正答について

■正答

川口 B

松山 A

村田 B

■解説

○川口は、「『いつもしている』人が少ない」、「積極的に取り組むべきではないでしょうか。」などの表現からBの意見となる。

○松山は、「六十七%も」、「よく取り組んでいる方だと思いません。」などの表現からAの意見となる。

○村田は、「三十七%にも」、「もっと取り組んだほうがいいと思います。」などの表現からBの意見となる。

(3) 誤答について

■解説

○話し合いでは、意見と根拠とを関係付けてとらえることが必要になる。三人のうち一人でも誤ってとらえているものは誤答とする。

設問二

(1) 趣旨

自分の立場や意図を明確にして話し合うことができるかどうかをみる。

話合いの流れを踏まえ、自分の立場や意図を明確にして発表する問題である。

本設問は、意見の立場が分かれている状況を踏まえ、「最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整とんによく取り組んでいる」というAの意見の立場で、平成十七年の割合を取り上げて発表する内容を書く問題である。

■学習指導要領の領域・内容

A 話すこと・聞くこと(第五・六学年)

ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

言語活動例(第五・六学年 A話すこと・聞くこと)
調べた事やまとめた事を話し合うこと

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度

話す・聞く能力

(2) 正答について

■正答例

○平成十七年の「ときどきしている」は四十八%もいて、約半分です。「いつもしている」の十四%も合わせると、六十二%もあります。だから、よく取り組んでいると思います。(八十字)

■解説

○①最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整とんによく取り組んでいると考える立場で書いていること、②平成十七年の割合(%)を取り上げていること、③六十以上八十以内で書いていることの三つの条件を満たしているものを正答とする。意見の立場を明確にし、数値(%)を根拠として発表する内容を記述する必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○条件のうち一部しか満たしていないもの、いずれも満たさないで解答しているものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 立場や意図を明確にして話し合う

話し合いでは、互いの立場や意図を明確にしながらか、その場の展開に沿って、自分の考えを形成していくことが大切である。そのためには、話し手の立場や意図をとらえて聞き、比較、対照したり、関連のあることをまとめたり分類したりして、自分の考えを明確にしていく指導が必要である。

(2) 資料や数値を根拠にして自分の考えを述べる

話し合いでは、自分の考えの根拠を端的に示すことで聞き手の理解を促すことが大切である。そのためには、意図に応じて、資料やそこに含まれる具体的な数値などの事実を根拠とした自分の考えを述べる必要がある。

(3) 調べたことやまとめたことについて討論などをする

調べたことやまとめたことを話題として取り上げ、互いの考えを出し合って討論する言語活動を充実することが大切である。調べたことやまとめたことについて討論するためには、本や文章を調べたり、インタビューやアンケートを行ったりするなどして、自分なりに幅広く考え、資料を用意しておくことが必要となる。

なお、小学校学習指導要領国語（平成二十年告示）では、座談会やパネルディスカッションなどの公開討論の形式などを利用し、討論の仕方を理解したり、討論を実際に行ったりするなどの工夫が大切であることを示している。

4 出典等

○独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」（平成十六年度調査・平成十七年度調査）による。

1 出題の趣旨

目的や意図にに応じて、効果的な読み方を工夫し、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

自分の考えを広げたり深めたりするために、説明的な文章の一部を読んで、筆者の表現の工夫や考えをとらえる問題である。

ここでは、マナーについて自分の考えをまとめるという目的をもち、一冊の本の「はじめに」と「おわりに」とを合わせて読んで、ノートに整理しながら内容を確かめる場面を設定した。表現の工夫をとらえたり、筆者の考えを自分の言葉で書き換えたりすることが求められる。

自分の考えを広げたり深めたりするためには、本や文章を選んで読み、内容や表現の工夫、筆者の考えをとらえることが大切である。このような読み方は、情報を収集し活用する上でも大切である。

2 各設問について

設問一

(1) 趣旨

筆者の表現の工夫に着目して読むことができるかどうかをみる。

文章の内容を確かめるために、筆者の表現の工夫に着目して読む問題である。

本設問は、説明的な文章の冒頭部分において、筆者が話題や問題を提示するときの表現の工夫に着目し、その説明として適切なものを選択するように設定した。

■学習指導要領の領域・内容

C 読むこと（第五・六年）

才 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

■評価の観点

読む能力

(2) 正答について

■正答

選択肢 3

読者の体験を思い出させて、マナーを身近な問題としてとらえさせている。

■解説

○身近な体験を思い出させることで、マナーというこの文章のテーマが読者にとって身近なものであることに気付かせていることをとらえる必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○選択肢 1 ↓ 本文では、筆者が失敗した体験は述べられていないので誤答である。

○選択肢 2 ↓ 本文では、筆者の体験と読者の体験は比べられていないので誤答である。

○選択肢 4 ↓ 本文では、読者のマナーのまちがいは示されていないので誤答である。

設問二(1)・(2)

(1) 趣旨

目的や意図に応じて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

自分の考えを広げたり深めたりするために、中心となる語句や文に着目して筆者の考えをとらえる問題である。

設問二(1)は、「はじめに」の中にある「知識五〇点、行動五〇点」の意味を文脈からとらえ、自分なりの言葉に書き換えるように設定した。また、設問二(2)では、「おわりに」の中にある「ワンランク上のむずかしい点」について、「はじめに」の内容と「おわりに」の内容とを関係付けながら書き換えるように設定した。

■学習指導要領の領域・内容

C 読むこと(第五・六学年)

イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。

エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読むこと。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度
読む能力

設問二(1)

(2) 正答について

■正答例

○マナーについての知識が不十分であっても、まずは行動する

■解説

○知識が不十分であることや、実際に行動することに触れて書いているものを正答とする。

(3) 誤答について

■解説

○条件を満たさないで解答しているものは誤答とする。

設問二(2)

(2) 正答について

■正答例

○(さらに、マナーやルールのむずかしい点は、)人と人との関係を支えているものだから、自分の気持ちだけを考えて行動しているのは、相手とずれてしまうという点である。(七十二文字)

■解説

○マナーやルールは自分の気持ちや行動だけを考えていては、相手とずれてしまうことなどに触れて、書き出しの言葉を含めて六十文字以上八十文字以内で書いているものを正答とする。「はじめに」と「おわりに」の中に書いてある筆者の考えを関係付けてとらえ、書き出しに続けて文脈を整えて書く必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○条件を満たさないうで解答しているものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 表現の工夫に着目して読む

本や説明的な文章を正確に読み取るためには、書かれている話題やそれに対する筆者の意見、その意見の根拠などをとらえるだけでなく、文章の構成の仕方や巧みな叙述などにも着目して読むことが必要である。指導に当たっては、文や文章の構成、語句の使い方、文末表現などを吟味することが重要になる。

(2) 目的に応じて効果的な読み方を工夫する

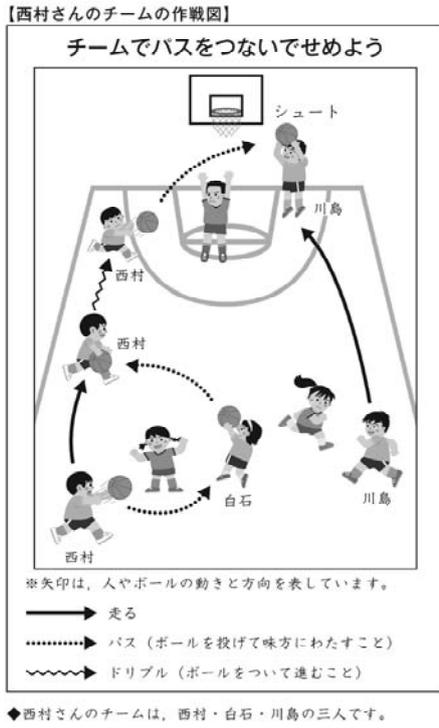
本や文章を読んで、感じたことや思ったこと、考えたことなどをまとめて発表し合うことが大切である。第五・六年では、自分の考えを広げたり深めたりするために、本や文章を選んで読むとともに、効果的な読み方を工夫することが必要となる。

効果的な読み方には、速読や比べ読みのほか、全体を概観しながら拾い読みする摘読、同じ課題で多くの本を重ねたり並行させたりして読む多読などがある。このような多様な読み方の中から、目的に応じて、効果的な読み方を選択し、活用することが重要である。

4 出典等

○辰巳渚 監修『これだけは知っておこう! マナー・エチケットの基本60』(二〇〇七年三月PHP研究所)による。(一部改変)

4 西村さんの学級では、バスケットボールの学習で、三人対三人でのせめ方や守り方の練習をしています。次は、西村さんのチームのせめ方についてまとめた作戦図です。人やボールの動きを考えて、あとの問いに答えましょう。



一 西村さんのチームでは、ボールをわたす順番を次のように整理しました。次の【A】・【B】にあてはまる人の名前をそれぞれ書きましょう。



二 西村さんのチームでは、チームのせめ方を次のようにまとめました。【ア】・【イ】の中に入るふさわしい内容を「だれが」「いつ」「どこ」が分かるように書きましょう。

まず、コート左側にいる西村さんが、中央にいる【A】さんにパスをします。その後、西村さんは、ゴールに向かって走ります。

次に、ア

そして、西村さんは、ドリブルをしてゴールに向かいます。コートの右側にいる【B】さんも、西村さんの動きに合わせてゴールに向かって走ります。

それから、イ

最後に、【B】さんは、ゴールに向かってシュートをします。

1 出題の趣旨

目的や意図に応じて、話の組立てを工夫しながら、図を使って説明することができるかどうかをみる。

2 各設問について

設問一

(1) 趣旨

目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出すことができるかどうかをみる。

説明する目的に応じて必要な情報を整理する問題である。本設問は、作戦図におけるボールの移動がどのような順序で行われるかを整理する場面を設定した。

■学習指導要領の領域・内容

A 話すこと・聞くこと（第五・六学年）

ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

■評価の観点

話す・聞く能力

(2) 正答について

■正答

【A】 白石

【B】 川島

■解説

○西村を起点とし、白石を中継した後、川島のシュートへつないでいく三人の動きやボールの流れをとらえる必要がある。

(3) 誤答について

■解説

○名前や順序を間違えているものは誤答とする。

設問二ア・イ

(1) 趣旨

目的や意図が伝わるように話の組立てを工夫しながら説明することができかどうかをみる。

全体を見通して必要な事柄を明確にし、事柄の相互の関係を整理しながら、「だれが」、「どうする」という観点で説明する問題である。本設問は、作戦の中でチームの一人一人が、他のメンバーとどのように関わることかを接続語を押さえて説明するように設定した。

■学習指導要領の領域・内容

A 話すこと・聞くこと（第五・六学年）

ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

言語活動例（第五・六学年 A 話すこと・聞くこと）

自分の考えを資料を提示しながらスピーチをすること

言語事項（第一・二学年）

(1) エ 文及び文章の構成に関する事項

(ア) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度

話す・聞く能力

言語についての知識・理解・技能

設問二ア

(2) 正答について

■正答例

- 白石さんが、コートの上側を走っている西村さんにパスを返します
- 西村さんが、コートの上側を走りながら、白石さんからパスをもらいます

■解説

- 白石が西村にパスをすること（西村が白石からパスをもらうこと）に触れて書いているものを正答とする。

(3) 誤答について

■解説

- 白石と西村の間におけるパスの流れをとらえていないものは誤答とする。

設問二イ

(2) 正答について

■正答例

- 西村さんが、ゴール前に走ってきた川島さんにパスをします
- 川島さんが、ゴール前に走っていき、西村さんからパスをもらいます

■解説

- 西村が川島にパスをすること（川島が西村からパスをもらうこと）に触れて書いているものを正答とする。

(3) 誤答について

■解説

- 西村と川島の間におけるパスの流れをとらえていないものは誤答とする。

3 学習指導に当たって

(1) 資料を提示しながら説明する

説明や報告をするときには、資料を提示することが効果的である。その際、図表をはじめ、映像や実物などの資料を適切に用いる必要がある。また、話す内容と資料との整合、適切な時間やタイミングでの資料の提示に注意しながら話すようにすることが重要である。

(2) 意図が伝わるように話の組立てを工夫して話す

意図を明確に伝えるためには、話の組立てを工夫して説明することが重要である。第一・二学年では、行動の順序、時間の順序などを考えながら話すこと、第三・四学年では、話の中心をはっきり決めて話すこと、話の要点が伝わるように工夫することなどが基盤となる。それらを踏まえて、第五・六学年では、事実と感想、意見との組立て、結論や山場の位置付けなどを効果的に工夫することが重要である。

(3) 様々な対象を説明する

事物や事柄といった静的なもの、説明や、手順や方法といった動的なものを説明する機会を増やすことが大切である。そのためには、説明的な文や文章を読んだり書いたりする言語活動を多様に経験することが必要である。さらに、目的や意図に応じて説明したことが、相手に理解されているかを確かめたり助言をもらったりすることが重要である。

Ⅲ 調査問題等

小学校第6学年

国語 A

注意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題には、国語と算数の問題があります。国語の問題は1ページから10ページまであります。算数の問題は反対側の表紙から始まり、1ページから11ページまであります。
- 3 解答用紙には、国語の解答らんの面と算数の解答らんの面があります。解答は、すべて解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HBまたはBの黒えん筆（シャープペンシルも可）を使い、こく、はっきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、次のとおりです。
 - ・国語 A 20分間
 - ・算数 A 20分間
 - ※それぞれの時間になったら、合図があります。
 - ※国語の問題を解き終わっても、算数の問題に進んではいけません。
 - ※解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 つくえの上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見て、解答用紙に、学校名、組、出席番号、男女、個人番号をまちがいのないように書きましょう。

— 次の(1)から(3)までの文の — 部の漢字の読みをひらがなで書きましょう。

(1) 駅は 混雑 している。

(2) 春から夏へ季節が 移る。

(3) めずらしい植物を 採集 する。

二 次の(1)から(3)までの文の——部のひらがなを漢字でていねいに書きましょう。

(1) びょういん に行く。

(2) 人の意見に さんせい する。

(3) 重い石を はこぶ。

3

小林さんは、転校していった友だちにはがきを書くことにしました。はがきの表に名前や住所を書きます。次のア・イ・ウ・エの中に入るふさわしいものを、下の1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

郵便はがき

□	□	□	□	□	□	□
---	---	---	---	---	---	---

エ ウ

イ ア

□ □ □ □ □ □ □ □

- 1 自分の名前
- 2 相手の名前
- 3 自分の住所
- 4 相手の住所

【実験報告文の一部】

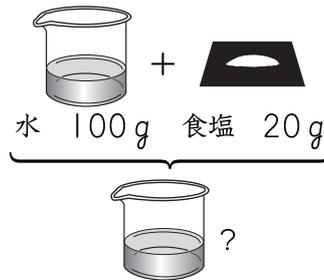
4

(1) 調べたこと

水にとかした食塩の重さはどうなるかを調べた。

(2) ア

- ① 水 100 g をはかりとる。
- ② 食塩 20 g をはかりとる。
- ③ 食塩 20 g を水 100 g に入れてとかし，できた食塩水の重さをはかる。



(3) イ

食塩は，水にとけると重さがなくなると思うので，食塩水全体の重さは，100 g になるのではないか。

(4) ウ

とかす前の重さ	
水	100 g
食塩	20 g
全体の重さ	120 g

→

とかした後の重さ
食塩水全体の重さ
120 g

食塩を水にとかす前の全体の重さと，食塩を水にとかした後の食塩水全体の重さは，どちらも 120 g だった。

(5) 考えたこと

食塩は，水にとけてもその重さはなくならないと考えた。

ふさわしいものを下の1から3までのの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

南田さんは、水にとかした食塩の重さについて実験をし、報告文を書きました。報告文の

ア

1 目的 2 注意 3 方法

イ

1 準備 2 予想 3 条件

ウ

1 評価 2 結果 3 想像

次は、お菓子かしをつくっている美奈みなを主人公にして書かれた物語の一部です。文章の表現のくふうについて説明したものととして、もっともふさわしいものをあとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

美奈は悲鳴をあげた。スポンジケーキが焼きあがるはずだったのに、オーブンからでてきたものはまっ黒な炭だったからだ。

美奈は、このごろ日曜日にはお菓子づくりに専念せんねんしている。先週はクッキーを焼いた。できあがったものは、みように歯にくっつくクチャクチャしたガムのようなものだった。そのまえの週は、ドーナツをあげた。おいしそうなきつね色にあがったのに、中は空洞くうどうだった。そのまえは、プリンをつくった。ボソボソとしたスポンジみたいだった。

それもこれも、今年のクリスマスには、友だち同士で手作りのお菓子をもちよって、パーティーをすることになったからだ。まったくだれがいいだしたんだろう。わたしではなかった。美奈は、ため息をついた。

(柏葉幸子かしわばさちこ『大おばさんの不思議なレシピ』による。)

【表現のくふう】

- 1 美奈と友だちとの関係が分かるように、それぞれの性格や考え方を書いている。
- 2 美奈が体験したことを、ほかの登場人物に対して語りかけるように書いている。
- 3 美奈が取り組んだお菓子づくりのことを、つくった順序のとおりに書いている。
- 4 美奈がお菓子をつくるたびに失敗してしまう様子を、たとえを使って書いている。

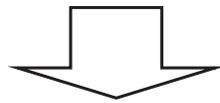
【図鑑の一部】

タンポポの種子は、綿毛のかさを広げて風を待つ。
このかさがかすかな風もとらえて種子を遠くへはこんで
いく。着地すると種子をおおう細かなトゲが船の錨いかりの
ようにはたらいで、種子を地面につなぎ止めるのだ。

果物が熟れて甘くなるのも、植物の“領土拡大作戦”
のひとつである。トリやサルなどの動物に食べさせて
移動するやり方だ。消化されない種子がフンと一緒に
出されて、やがてその場で芽を出す。

(ガリレオ工房『びっくりふしぎ 写真で科学④ 植物の素顔』による。)

※「錨」…船をとめておくために、水中にしずめておく鉄のおもり。



【メモ】

〈種子の移動によって仲間を増やす方法〉

○ 一つめの方法

綿毛のかさがとらえる風によって種子を遠くへはこ
んでいく方法

○ 二つめの方法

うれてあまくなった果物を

ア

方法

【メモ】の「ア」の中に入るふさわしい内容を【図鑑の一部】の中の言葉を使って書きま
しょう。

戸山さんは、植物が仲間を増やすための種子の移動について図鑑で調べ、メモに取りました。

次は、谷川さんの学級で、地域の人たちとの交流会で行う劇の内容について話し合った様子
の一部です。——部は、司会者の進め方の良いところですよ。どのおうなところが良いか
説明しましょう。

【話し合いの様子の一部】

〽 (劇の内容について話し合っている) 〽

谷川 はい。ぼくたちの町に伝わる昔話がいいと思います。町に伝わる昔話なら、
地域のみなさんもぼくたちも楽しめると思うからです。

〽 (同じような意見が続く) 〽

花田 わたしは、登場人物の多い話がいいと思います。みんなが登場して、地域の
みなさんに顔を覚えてもらいたいからです。

〽 (同じような意見が続く) 〽

司会 今、出されている案は、「町に伝わる昔話」と「登場人物の多い話」です。その
ほかにはありませんか。(しばらく時間をおく) なければ、この二つの案のどち
らにも合う題材を決めるということ、話し合いを進めてもいいですか。

全員

いいです。

〽 (話し合いが続く) 〽

8

六年生の高島さんは、五年生のときから入っている放送委員会のことを文章に書きました。読み直した後、③の文について、「だから」を使って二つの文に分けて書き直すことにしました。「だから」を使って二つの文に分けたときの前の文の終わりの七文字と後の文の始めの七文字を書きましよう。

【文章の一部】

①放送委員会の役員を決める話し合いをした。②ぼくは、委員長を任されることになった。③新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

※解答は、解答用紙に書きましよう。

。だから、

9

次は、本間さんが毛筆で書いた下書きです。これを、「ア 文字の大きさ」、「イ 文字と文字の間」、「ウ 文字と行の中心」の三つの点から見直して清書をします。ウについては、どのように書き直しますか。あとの の中に入るふさわしい内容をアとイの書き方と同じように書きましよう。

【下書き】

時 間 を 守 ろ う

※ …… は、行の中心を表しています。

ア 文字の大きさ

「を」、「ろ」、「う」が漢字と同じくらいの大きさになっているから、漢字より少し小さくする。

イ 文字と文字の間

「時」と「間」との間があきすぎているから、ほかの文字と文字との間と同じようにする。

ウ 文字と行の中心

から、行の中心に合わせるようにする。

※解答は、解答用紙に書きましよう。

小学校第6学年

国語 B

注意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1ページから14ページまであります。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、すべて解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HBまたはBの黒えん筆（シャープペンシルも可）を使い、こく、はっきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、40分間です。解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 つくえの上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見て、解答用紙に、学校名、組、出席番号、男女、個人番号をまちがいのないように書きましょう。

六年生の山中さんは、「小学生の体力は二十年前よりも低下した」という記事を読んで、興味をもちました。そこで、自分たちの小学校における五十メートル走の平均タイムの変化について調べ、次の報告文を書きました。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

五十メートル走の平均タイムの変化

第一小学校 六年 山中 洋平

一 調べた理由

「小学生の体力は二十年前よりも低下した」という記事を見つけた。そこには、全国の小学校六年生の五十メートル走の平均タイムが下の【表】のようにまとめられていた。平成十九年のタイムが、二十年前の昭和六十二年よりもおそくなっていた。

【表】50メートル走の平均タイムの変化
(全国の小学校6年生)

男子		女子	
昭和62年	平成19年	昭和62年	平成19年
8秒60	8秒91	8秒91	9秒19

(右下に続く)

ぼくたちの学校でも同じだろうかというぎもんがわいてきた。そこで、第一小学校の平均タイムの変化について調べ、記事と比べてみることにした。

二 調べた内容と結果

第一小学校における六年生の五十メートル走の平均タイムの変化について、平成二十一年(現在)と、昭和六十二年(記事で取り上げられていた約二十年前)を取り上げて調べた。

(左上に続く)

◆平成二十一年の第一小学校六年生の平均
タイム

一つめとして、ぼくたち六年生の平均タイムを調べた。

まず、体育の時間に学年全員の五十メートル走のタイムを計った。走った人数は、男女ともに三十五人ずつだった。

次に、平均タイムを先生に出してもらった。平均タイムは、男子は九秒〇、女子は九秒三だった。

◆昭和六十二年の第一小学校六年生の平均
タイム

二つめとして、昭和六十二年のぼくたちの小学校の六年生の平均タイムを調べた。

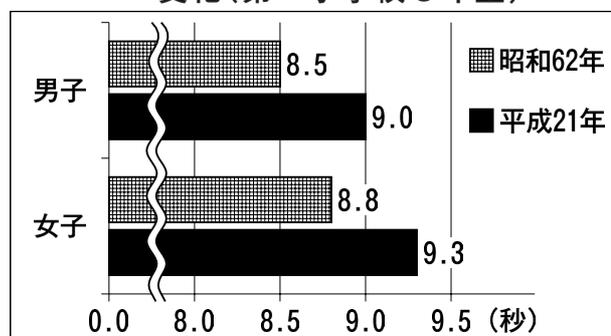
学校図書館でさがしたが、データが見つからなかった。そこで先生に相談すると、先生がデータを見つけてくださった。平均タイムは、男子は八秒五、女子は八秒八だった。

(右下に続く)

三 まとめ

平成二十一年と昭和六十二年の第一小学校の平均タイムを、下の【グラフ】のよ

【グラフ】50メートル走の平均タイムの変化(第一小学校6年生)



調査をきっかけに、もっと速く走れるようになるにはどうすればいいのだろうかと考えようになった。

これからも、体力や運動の仕方などに関心をもって、いろいろな本を読んで調べたり、積極的に運動に取り組んだりしたい。

一 次は、山中さんが調べる内容を書いたメモの一部です。報告文の「二 調べた内容と結果」を読んで、アの中に入るふさわしい内容を書きましよう。

【メモの一部】

◆平成二十一年の平均タイム

①

ア

◇ 日時 平成二十一年四月十五日 三時間目

◇ 場所 運動場

◇ 人数 男子三十五人 女子三十五人

◇ 準備 記録用紙、ストップウォッチ、コーン
・・・

② 平均タイムを先生に出してもらおう

◆昭和六十二年の平均タイム

...

川口さんの学級では、家族の一員としてできることを考えるために、家庭での過ごし方について調べました。次は、川口さんのグループが集めた資料をもとにした話し合いの様子の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

【資料】家の中のそうじや整とんをする小学校6年生の割合

	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない	無回答など
平成16年	15%	52%	24%	9%	0%
平成17年	14%	48%	29%	8%	1%

(国立オリンピック記念青少年総合センター

「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」による。)

司会 ここからは、川口さんたちが集めた【資料】をもとに

して、「家の中のそうじや整とん」について話し合います。【資料】を見て分かったことや考えたことを発表してください。

川口 平成十六年を見ると、「いつもしている」人が少ないと思います。家の中のそうじや整とんはむずかしいことではないと思います。家族の一員としての自覚をもって、積極的に取り組むべきではないでしょうか。

松山 確かに、平成十六年の「いつもしている」は十五％しかいません。でも、「ときどきしている」を合わせると、六十七％もいます。むしろ、よく取り組んでいるほうだと思います。

司会

今、二人は、平成十六年の割合から考えた意見を出してくれましたが、平成十七年の割合からも考えてみてください。

村田

わたしは、平成十七年の「あまりしていない」と「まったくしていない」に注目しました。この二つを合わせると、三十七%にもなります。しかも、平成十六年よりも増えているので、もっと取り組んだほうがいいと思います。

あなたの発表

ア

〽 (話し合いが続く) 〽

一 話し合いで出された意見を次の の中にある二つに分けます。「川口・松山・村田」の三人は、それぞれA・Bのどちらの意見になりますか。
 の中に、それぞれAかBのどちらかふさわしいほうを選んで書きましよう。

A 最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整とんによく取り組んでいるという意見

B 最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整とんにあまり取り組んでいないという意見

※解答は、解答用紙に書きましよう。

村田

松山

川口

上野さんの学級では、マナーに関する本を読んで、自分の考えをまとめることにしました。上野さんは一冊の本を読んだ後、本の「はじめに」と「おわりに」とを合わせて読んで、内容を確かめることにしました。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

※段落のはじめにある数字は、その段落の番号を示しています。

はじめに

- 1 みなさんは、家でも学校でも「食べるときには、いただきますと言いなさい」「電車ではお年寄りに席を譲りなさい」などと、教わりますね。もしかしたら、学校のクラスで「こういうときは、どうしたらいいのかな」とマナーやルールを考える授業もあるかもしれないかもしれません。みなさんは、そういうとき、正しいマナーがわかるでしょうか。
- 2 正しいマナーなんて、簡単ですね。誰でもわかることばかり。みなさんも、きっと、心のなかで「そんなこと、あたりまえじゃん」とおかしく思いながら答えているのではないのでしょうか。
- 3 でも、よく考えてみてください。あたりまえのマナーを、あなたは、家や学校でほんとうにやっていますか。頭ではわかっているも友達たちに「ごめんね」と言えなかったり、宿題をやるうやろうと思いつながらテレビを見ていたりしませんか。
- 4 マナーは、知っているだけでは足りないのです。ちゃんと行動して、言葉にだして、できるようになって、はじめて「マナーOK」なのです。「知識一〇〇点、行動〇点」よりも、「知識五〇点、行動五〇点」の人のほうが、ずっと立派です。

おわりに

- 1 最初に、マナーは実践じっせんするのがたいせつだ、と書きました。つまり、知っているだけでは足りなくて行動するのがだいじなんだよ、ということでした。ところが、さらにマナーやルールには、もうワンランク上のむずかしい点があるわけです。
※1
- 2 なぜ、むずかしいのでしょうか。それは、マナーやルールは、自分だけのことでなく、人と人との関係を支えるものだからです。大人の用語で言えば、「社会的な人間関係※2の潤滑油じゆんかつゆ」だから、と言えます。
- 3 マナーは自分中心ではなくて、相手中心に考える気持ちからはじまることなのです。だから自分の気持ちや行動だけを考えていては、相手とずれることも出てくるのです。相手のことを思い、相手の様子に気づくことから、人と人が仲よくすごすために役に立つ、すてきな行動がはじまるのです。

(辰巳渚 監修 『これだけは知っておこう! マナー・エチケットの基本60』による。)

※1 「ワンランク」……一つの段階だんかいや順位。

※2 「潤滑油」……物事をうまく運ぶためのなかだちとなるもののたとえ。

― 上野さんは、「はじめに」の第1段落の表現がくふうされていることに気付きました。そのくふうを説明したものとして、もっともふさわしいものを次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 筆者が失敗した体験をもとにして、マナーのむずかしさを考えさせている。
- 2 筆者の体験と読者の体験のちがいを比べて、マナーの大切さを示している。
- 3 読者の体験を思い出させて、マナーを身近な問題としてとらえさせている。
- 4 読者が体験したマナーのまちがいを示して、具体的な行動の方法を教えている。

二 上野さんは、「はじめに」と「おわりに」の中に書いてある筆者の考えを次のようにノートにまとめました。あとの問いに答えましょう。

【上野さんのノートの一部】

① 「はじめに」の中に書いてある筆者の考え

「知識一〇〇点、行動〇点」よりも、「知識^ア五〇点、行動五〇点」の人のほうが、ずっと立派です。

マナーについての知識は十分であるのに、全く行動しない人よりも、

A

人のほうが立派である。

② 「おわりに」の中に書いてある筆者の考え

マナーやルールには、もうワンランク上のむずかしい点があるわけです。



さらに、マナーやルールのむずかしい点は、

B

(1) 上野さんは、**A** 部を自分の言葉で書きかえることにしました。
 るふさわしい内容を筆者の考えに合わせて書きましょう。

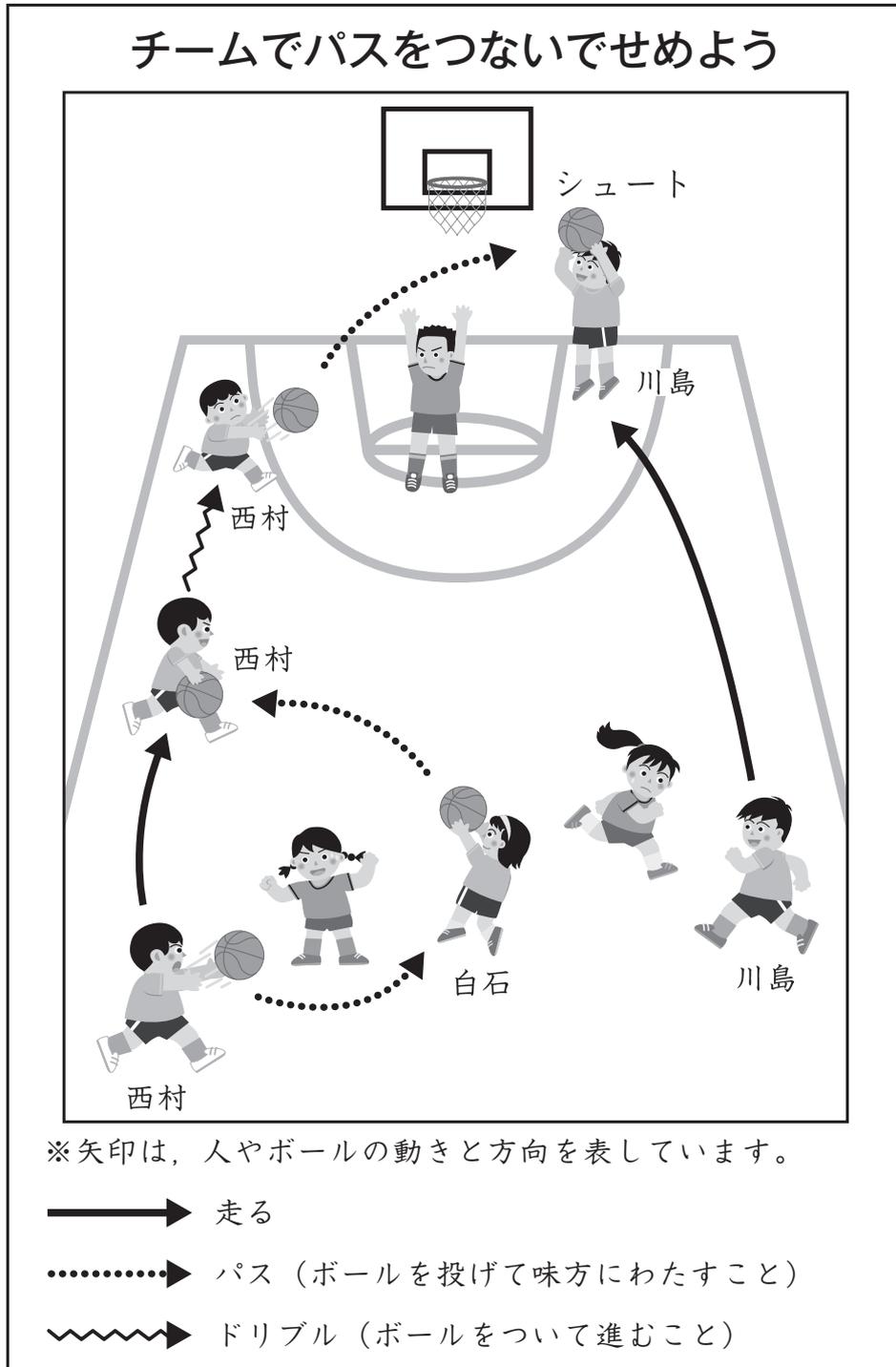
(2) 上野さんは、**B** 部をよく理解するために書きかえることにしました。
 中に入るふさわしい内容を筆者の考えに合わせて、**六十**字以上八十
字以内にまとめて書きましょう。

(メモ) ※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

			さ
			ら
			に
			、
			マ
			ナ
			ー
			ヤ
			ル
			ー
			ル
			の
			む
			ず
			か
			し
			い
			点
			は
			、

80字 60字

【西村さんのチームの作戦図】

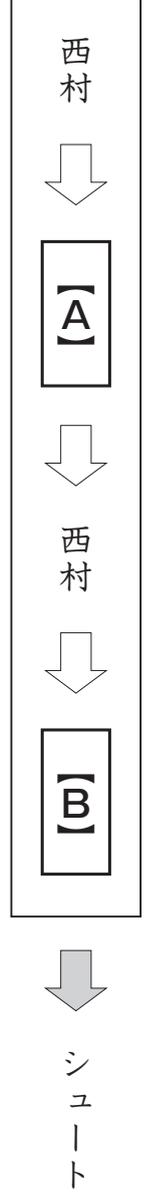


◆西村さんのチームは、西村・白石・川島の三人です。

西村さんの学級では、バスケットボールの学習で、三人対三人でのせめ方や守り方の練習をしています。次は、西村さんのチームのせめ方についてまとめた作戦図です。人やボールの動きを考えて、あとの問いに答えましょう。

一 西村さんのチームでは、ボールをわたす順番を次のように整理しました。次の
【A】
・
【B】
にあてはまる人の名前をそれぞれ書きましょう。

【ボールをわたす順番】



二 西村さんのチームでは、チームのせめ方を次のようにまとめました。 【ア】
・

【イ】 の中に入るふさわしい内容を「だれが」、「どうする」ということが分かるように
書きましょう。

まず、コートの上側にいる西村さんが、中央にいる【A】さんにパスをします。その後、
西村さんは、ゴールに向かって走ります。
次に、
ア
。そして、西村さんは、ドリブルをしてゴールに向かいます。コートの上側にいる【B】
さんも、西村さんの動きに合わせてゴールに向かって走ります。
それから、
イ
。
最後に、【B】さんは、ゴールに向かってシュートをします。

平成21年度 全国学力・学習状況調査
平成21年4月 文部科学省

解答用紙

小学校第6学年
国語A 解答用紙

7011

↑ 《ここから右には解答を書いてはいけません。》 ↓

1

一	(1)	(る)
	(2)	
	(3)	
二	(1)	(る)
	(2)	
	(3)	

3

ア	イ	ウ	エ
---	---	---	---

4

ア	イ	ウ
---	---	---

5

--

6

--

2

1	2	3
---	---	---

7

--

8

	。だから、	
--	-------	--

9

--

↑ 《ここから下には解答を書いてはいけません。》 ↓

↑ 《ここから下には解答を書いてはいけません。》 ↓

学校名

組

出席番号

男女

個人番号

※個人番号票を見ながら、1ますに1けたずつ、数字を書き写してください。

国A
算A

小学校第6学年
国語B 解答用紙

1061

《ここから右には解答を書いてはいけません。》

1

一	
二	<p>※書き始めは、一まず^あ空け^あないで書きましよう。とちゆうて行を変え^あないで續けて書きましよう。</p>
三	
四	
五	
六	
七	
八	
九	
十	

100字 80字

2

一	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">川口</td> <td style="width: 80px; height: 30px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">松山</td> <td style="width: 80px; height: 30px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">村田</td> <td style="width: 80px; height: 30px;"></td> </tr> </table>	川口		松山		村田	
川口							
松山							
村田							
二	<p>※書き始めは、一まず^あ空け^あないで書きましよう。とちゆうて行を変え^あないで續けて書きましよう。</p>						
三							
四							
五							
六							
七							
八							
九							
十							

60字 80字

3と4の解答らんは、裏面^{うら}にあります。

《ここから右には解答を書いてはいけません。》

《ここから下には解答を書いてはいけません。》

学校名	組	出席番号	男女	個人番号

※個人番号票を見ながら、1まずに1けたずつ、数字を書き写してください。

国B

《ここから右には解答を書いてはいけません》

3

二	一	
	(1)	人のほうが立派である。
二	(2)	※書き出しの言葉は字数にふくみます。とちゅうで行を変えないで続けて書きましょう。
		さらに、マナーやルールのむずかしい点は、

80字 60字

4

二	一	[A]	
		[B]	
二	ア		
	イ		

《ここから左には解答を書いてはいけません》

正 答（例）

正答(例)【小学校国語】
A 主として「知識」に関する問題

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								二 一
(例)「守」の文字の中心が行の中心と合っていない	(例)そうにしていた。(だから)ぼくは、これま	(例2)次に話し合う内容を全員に確かめて話し合いを進めていこうとしているところが良い。	(例)トリやサルなどの動物に食べさせて移動する	4	ウイア 2 2 3	エウイア 1 3 2 4	3 2 1 はっば tabemono kusuri	(3)(2)(1)(3)(2)(1) 運賛病院さいしゅう (ぶ)成院ゆう(る)

B 主として「活用」に関する問題

4	3	2	1
二 一	二 一	二 一	二 一
イ(例)西村さんが、ゴール前に走ってきた川島さんにパスをします ア(例)白石さんが、コート左側を走っている西村さんにパスを返します 【A】白石 【B】川島	(1)(例)マナーについての知識が不十分であっても、まずは行動する (2)(例)(さらに、マナーやルールのむずかしい点は、)人と人との関係を支えているものだから、自分の気持ちだけを考えて行動しては、相手とずれてしまいうという点である。(七十六字)	川口 松山 村田 B A B (例)平成十七年の「ときどきしている」は四十八%もいて、約半分です。「いつもしている」の十四%も合わせると、六十二%もあります。だから、よく取り組んでいると思います。(八十字)	(例)体育の時間に学年全員の五十メートル走のタイムを計る (例)第一小学校の六年生の平均タイムは、男子も女子も昭和六十二年よりも平成二十一年の方がおそくなっていた。このことから、ぼくたちの学校でも記事と同じように、平均タイムがおそくなっていることが分かった。(九十七字)

点字問題(抜粹)

1

— 次の(1)から(3)までの文の「・・・」で示した部分の語について意味を答えましょう。

- (1) 駅は 「混雑」 している。
- (2) 春から夏へ季節が 「変化」 する。
- (3) めずらしい植物を 「採集」 する。

二 次の(1)から(3)までの文の「・・・」で示した部分と同じ意味の漢字を用いるものを、あと
のアからエまでの中からそれぞれ一つずつ選んで、その記号を書きましよう。

(1) びよう「いん」 に行く。

ア かいしゃ「いん」

イ げん「いん」

ウ ちりよう「いん」

エ 「いん」さつじよ

(2) 人の意見に はん「たい」 する。

ア 「たい」けん する

イ 「たい」りつ する

ウ き「たい」 する

エ 「たい」じよう する

(3) 重い石を い「どう」
ア こうそく「どう」ろ
イ 「どう」きゅうせい
ウ じ「どう」かい
エ うん「どう」かい
する。

3

小林さんは、転校していった友だちに点字郵便（点字用郵便）ではがきを書くことにしました。はがきの表に示す順に次の**1**から**4**をならべかえて書きましょう。

1 自分の住所と名前

2 相手の住所

3 相手の名前

4 点字郵便（点字用郵便）のスタンプ

六年生の高島さんは、五年生の時から入っている放送委員会のことを文章に書き直しました。読み直した後、③の文について、「だから」を使って二つの文に分けて書き直すことにしました。「だから」を使って二つの文に分けたときの前の文の終わりの一文節と、後の文の「だから」に続く始めの一文節を例のように書きましよう。

【例】

。

だから、

。

【文章の一部】

①放送委員会の役員を決める話し合いをした。②ぼくは、委員長を任されることになった。③新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

9

次の

の中に入るふさわしい内容を書きましよう。

箇条書きにするときは、内容のまとまりごとに

。

ここから先のページは、
裏表紙の方からお読みください。

ここから先のページは、
表紙の方からお読みください。

【参考文献】

- 文部科学省「小学校学習指導要領（平成10年12月告示，平成15年12月一部改正）」
平成16年1月20日（改訂版）
- 文部科学省「小学校学習指導要領（平成20年3月告示）」
- 文部省「小学校学習指導要領解説国語編」 平成11年5月31日
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」 平成20年8月
- 全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」 平成18年4月25日
- 文部科学省「読解力向上に関する指導資料 ～PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向～」 平成17年12月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料（小学校）—評価規準，評価方法等の研究開発（報告）—」平成14年2月
- 文部科学省 国立教育政策研究所「平成19年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」 平成20年1月
- 文部科学省 国立教育政策研究所「平成20年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」 平成20年11月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成19年度 全国学力・学習状況調査解説資料 小学校 国語」 平成19年5月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成20年度 全国学力・学習状況調査解説資料 小学校 国語」 平成20年4月

(62) 解答^{かいとう}を文章^{ぶんしょう}で書く問題^{か もんたい}がありました。それらの問題^{もんたい}について、
どのように解答^{かいとう}しましたか。

- 1 すべての書く問題^{か もんたい}で最後まで解答^{かいとう}を書こうと努力^{どりょく}した
- 2 書く問題^{か もんたい}で解答^{かいとう}しなかったり、解答^{かいとう}を書くことを途中^{とちゅう}であきらめたりしたものがあった
- 3 書く問題^{か もんたい}は全く^{まった}解答^{かいとう}しなかった

あなたは、今回の国語の問題について、どのようにお思いましたか。
 次の(61)、(62)のそれぞれについて、当てはまるものを1つずつ選んでください。

1

六年生の山中さんは、「小学生の体力は二十年前よりも低下した」という記事を読んで、興味をもちました。そこで、自分たちの小学校における五十メートル走の平均タイムの変化について調べ、次の報告文を書きました。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

五十メートル走の平均タイムの変化
 第一小学校 六年 山中 洋平

一 調べた理由

「小学生の体力は二十年前よりも低下した」という記事を見つけた。そこには、全国の小学校六年生の五十メートル走の平均タイムが下の【表】のようにまとめられていた。平成十九年のタイムが、二十年前の昭和六十二年よりもおそくなっていた。

【表】50メートル走の平均タイムの変化
 (全国の小学校6年生)

男子		女子	
昭和62年	平成19年	昭和62年	平成19年
8秒60	8秒91	8秒91	9秒19

(右下に続く)

二 調べた内容と結果

ぼくたちの学校でも同じだろうかという疑問がわいてきた。そこで、第一小学校の平均タイムの変化について調べ、記事と比べてみることにした。
 第一小学校における六年生の五十メートル走の平均タイムの変化について、平成二十一年(現在)と、昭和六十二年(記事で取り上げられていた約二十年前)を取り上げて調べた。

(左上に続く)

◆平成二十一年の第一小学校六年生の平均タイム

一つめとして、ぼくたち六年生の平均タイムを調べた。
 まず、体育の時間に学年全員の五十メートル走のタイムを計った。走った人数は、男女ともに三十五人ずつだった。
 次に、平均タイムを先生に出してもらった。平均タイムは、男子は九秒〇、女子は九秒三だった。

◆昭和六十二年の第一小学校六年生の平均タイム

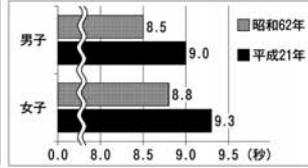
二つめとして、昭和六十二年のぼくたちの小学校の六年生の平均タイムを調べた。学校図書館でさがしたが、データが見つからなかった。そこで先生に相談すると、先生がデータを見つけてくださった。平均タイムは、男子は八秒五、女子は八秒八だった。

(右下に続く)

三 まとめ

平成二十一年と昭和六十二年の第一小学校の平均タイムを、下の【グラフ】のようにまとめた。

【グラフ】50メートル走の平均タイムの変化(第一小学校6年生)



A

調査をきっかけに、もっと速く走れるようになるにはどうすればいいのだろうかと考えようになった。
 これからも、体力や運動の仕方などに関心をもって、いろいろな本を読んで調べたり、積極的に運動に取り組んだりしたい。

小国B-2

小国B-1

(61) この問題にあるような、長い文章を読むのは難しい

- 1 難しいと思う
- 2 どちらかといえば、難しいと思う
- 3 どちらかといえば、難しいと思わない
- 4 難しいと思わない

当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまら ない	当てはま らない
-------	--------------------	--------------------------	-------------

(57) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている…………… 1 — 2 — 3 — 4

(58) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てをくふうしている…… 1 — 2 — 3 — 4

(59) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている…………… 1 — 2 — 3 — 4

(60) 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいる…………… 1 — 2 — 3 — 4

12 あなたは、^{こくご}国語についてどのように^{おも}思っていますか。^あ当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ^{えら}選んでください。

当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
-------	----------------	------------------	---------

(52) ^{こくご}国語の^{べんきょう}勉強は^す好きだ …………… 1 — 2 — 3 — 4

(53) ^{こくご}国語の^{べんきょう}勉強は^{たいせつ}大切だ …………… 1 — 2 — 3 — 4

(54) ^{こくご}国語の^{じゅぎょう}授業の^{ないよう}内容はよく^わ分かる…………… 1 — 2 — 3 — 4

(55) ^{どくしょ}読書は^す好きだ…………… 1 — 2 — 3 — 4

(56) ^{こくご}国語の^{じゅぎょう}授業で^{がくしゅう}学習したことは、
^{しょうらい}将来、^{しゃかい}社会に^で出たときに^{やく}役に^た立つ…………… 1 — 2 — 3 — 4

3 質問紙調査項目 (教科関連部分)

解答類型 [点字問題] 【小学校国語】

A 主として「知識」に関する問題

◎…解答として求める条件をすべて満たしている正答

問題番号	解答類型	類型番号	
1	一 (1)	・「こみあう」という意味が含まれているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	一 (2)	・「かわる」という意味が含まれているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	一 (3)	・「あつめる」という意味が含まれているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	二 (1)	・ウと解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
二 (2)	・イと解答しているもの	1◎	
	・上記以外の解答	9	
	・無解答	0	
二 (3)	・エと解答しているもの	1◎	
	・上記以外の解答	9	
	・無解答	0	
3		・4, 2, 3, 1の順に解答しているもの	1◎
		・4, 1, 2, 3の順に解答しているもの	2
		・4, 3, 2, 1の順に解答しているもの	3
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
		・無解答	0
8		・「いた」。(だから,)「ぼくは」などと解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
9		・「(番号や記号をつけて) 改行する」などと解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0

解答類型

点字問題部分

問題番号	解 答 類 型		類型番号
4	一	・ A「白石」、B「川島」と解答しているもの	1◎
		・ A「白石」と解答しているが、B「川島」と解答していないもの	2
		・ B「川島」と解答しているが、A「白石」と解答していないもの	3
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
	二 ア	・ 「白石さんが、(コートの上側を走っている)西村さんにパスを返す」こと、または、「西村さんが、(コートの上側を走りながら,)白石さんからパスをもらう」ことに触れているもの	1◎
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
	二 イ	・ 「西村さんが、(ゴール前に走ってきた)川島さんにパスをする」こと、または、「川島さんが、(ゴール前に走っていき,)西村さんからパスをもらう」ことに触れているもの	1◎
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0

問題番号	解答類型		類型番号	
3	一	・ 1 と解答しているもの	1	
		・ 2 と解答しているもの	2	
		・ 3 と解答しているもの	3◎	
		・ 4 と解答しているもの	4	
		・ 上記以外の解答	9	
		・ 無解答	0	
		二 (1)	・ 「マナーについての知識が不十分であっても、まずは行動する」などと解答しているもの	1◎
	・ 上記以外の解答		9	
	・ 無解答		0	
	二 (2)	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①マナーやルールは、自分の気持ちや行動だけを考えては、相手とずれてしまうことなどに触れている。 ②書き出しの言葉を含めて、60字以上80字以内で書いている。		
		(正答例) ・ (さらに、マナーやルールのむずかしい点は、) 人と人との関係を支えているものだから、自分の気持ちだけを考えて行動しては、相手とずれてしまうという点である。(76字)		
		・ 条件①、②のいずれも満たしているもの	1◎	
		・ 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの	2	
		・ 上記以外の解答	9	
		・ 無解答	0	

問題番号	解答類型	類型番号	
②	一	・川口にB, 松山にA, 村田にBを解答しているもの	1 ◎
		・川口にB, 松山にA, 村田にB以外を解答しているもの	2
		・川口にB, 松山にA以外, 村田にBを解答しているもの	3
		・川口にB以外, 松山にA, 村田にBを解答しているもの	4
		・川口にB, 松山にA以外, 村田にB以外を解答しているもの	5
		・川口にB以外, 松山にA, 村田にB以外を解答しているもの	6
		・川口にB以外, 松山にA以外, 村田にBを解答しているもの	7
		・川口にA, 松山にB, 村田にAを解答しているもの	8
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	二	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①最近の小学校六年生は, 家の中のそうじや整とんによく取り組んでいると考える立場で書いている。 ②平成十七年の割合(%)を上げている。 ③60字以上80字以内で書いている。	
		(正答例) ・平成十七年の「ときどきしている」は四十八%もいて, 約半分です。「いつもしている」の十四%も合わせると, 六十二%もあります。だから, よく取り組んでいると思います。(80字) ・平成十七年を見ると, 「まったくしていない」の八%と「無回答など」の-%以外の九十一%の人が取り組んでいることとなります。だから, よく取り組んでいると思います。(79字) ・「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせると, 平成十六年は六十七%, 平成十七年は六十二%もいて, 毎年六割以上もいるので, よく取り組んでいると思います。(79字)	
		・条件①, ②, ③のいずれも満たしているもの	1 ◎
		・条件①, ②はいずれも満たしているが, 条件③は満たしていないもの	2
		・条件①, ③はいずれも満たしているが, 条件②は満たしていないもの	3
		・条件②, ③はいずれも満たしているが, 条件①は満たしていないもの	4
		・条件①は満たしているが, 条件②, ③はいずれも満たしていないもの	5
		・条件②は満たしているが, 条件①, ③はいずれも満たしていないもの	6
		・上記以外の解答	9
・無解答		0	

解答類型【小学校国語】

B 主として「活用」に関する問題

◎…解答として求める条件をすべて満たしている正答

○…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

問題番号	解答類型	類型番号	
1	一	・「体育の時間に学年全員の五十メートル走のタイムを計る」などと解答しているもの	1 ◎
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
	二	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①第一小学校の六年生の現在の平均タイムと二十年前の平均タイムとの変化について触れている。 ②第一小学校の六年生の調査でも記事に書かれていた全国の六年生の調査と似たような傾向が見られたことについて触れている。 ③80字以上100字以内で書いている。	
		(正答例) ・ 第一小学校の六年生の平均タイムは、男子も女子も昭和六十二年よりも平成二十一年の方がおそくなっていた。このことから、ぼくたちの学校でも記事と同じように、平均タイムがおそくなっていることが分かった。(97字)	
		・ 条件①, ②, ③のいずれも満たしているもの	1 ◎
		・ 条件①, ②はいずれも満たしているが, 条件③は満たしていないもの	2
		・ 条件①, ③はいずれも満たしているが, 条件②は満たしていないもの	3
		・ 条件②, ③はいずれも満たしているが, 条件①は満たしていないもの	4
		・ 条件①は満たしているが, 条件②, ③はいずれも満たしていないもの	5
		・ 条件②は満たしているが, 条件①, ③はいずれも満たしていないもの	6
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0

解答類型

B 主として「活用」に関する問題

問題番号	解答類型	類型番号
9	<p>(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①書き直す文字として「守」を指摘している。 ②文字と行の中心が合っていないことに触れている。</p> <p>~~~~~</p> <p>(正答例) ・「守」の文字の中心が行の中心と合っていない</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・条件①, ②のいずれも満たしているもの 	1 ◎
	<ul style="list-style-type: none"> ・条件①は満たしているが, 条件②は満たしていないもの 	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・条件①は満たしていないが, 条件②は満たしているもの 	3
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記以外の解答 	9
	<ul style="list-style-type: none"> ・無解答 	0

問題番号		解答類型	類型番号
4	ウ	・ 1 と解答しているもの	1
		・ 2 と解答しているもの	2 ◎
		・ 3 と解答しているもの	3
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
5		・ 1 と解答しているもの	1
		・ 2 と解答しているもの	2
		・ 3 と解答しているもの	3
		・ 4 と解答しているもの	4 ◎
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
6		・ 「(トリやサルなどの) 動物に食べさせて移動する」などと解答しているもの	1 ◎
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
7		(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①出された意見を整理し、二つの案を生かそうとしていることに触れている。 ②次に話し合う内容について確認した上で進行しようとしていることに触れている。 ~~~~~ (正答例) ・ 出された二つの意見を合わせて話し合いを進めていこうとしているところが良い。 ・ 次に話し合う内容を全員に確かめて話し合いを進めていこうとしているところが良い。	
		・ 条件①, ②のいずれも満たすか, いずれかを満たしているもの	1 ◎
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0
8		・ 「そうにしていた」(。だから,)「ぼくは, これま」などと解答しているもの	1 ◎
		・ 上記以外の解答	9
		・ 無解答	0

問題番号	解答類型		類型番号
2	1	・「kusuri」と解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	2	・「tabemono」と解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	3	・「はっば」と解答しているもの	1◎
		・「はば」と解答しているもの	2
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	3	・アに4, イに2, ウに3, エに1と解答しているもの	1◎
		・アに3, イに1, ウに4, エに2と解答しているもの	2
・アに2, イに4, ウに1, エに3と解答しているもの		3	
・上記以外の解答		9	
・無解答		0	
4	ア	・1と解答しているもの	1
		・2と解答しているもの	2
		・3と解答しているもの	3◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	イ	・1と解答しているもの	1
		・2と解答しているもの	2◎
		・3と解答しているもの	3
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0

解答類型【小学校国語】

A 主として「知識」に関する問題

◎…解答として求める条件をすべて満たしている正答

○…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

問題番号	解答類型	類型番号	
1	一 (1)	・「こんざつ」と解答しているもの	1◎
		・「こん」と解答しているが、「ざつ」と解答していないもの	2
		・「こん」と解答していないが、「ざつ」と解答しているもの	3
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	一 (2)	・「うつ(る)」と解答しているもの	1◎
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	一 (3)	・「さいしゅう」と解答しているもの	1◎
		・「さい」と解答しているが、「しゅう」と解答していないもの	2
		・「さい」と解答していないが、「しゅう」と解答しているもの	3
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	二 (1)	・「病院」と解答しているもの	1◎
		・「病」と解答しているが、「院」と解答していないもの	2
		・「病」と解答していないが、「院」と解答しているもの	3
		・上記以外の解答	9
		・無解答	0
	二 (2)	・「賛成」と解答しているもの	1◎
		・「賛」と解答しているが、「成」と解答していないもの	2
・「賛」と解答していないが、「成」と解答しているもの		3	
・上記以外の解答		9	
・無解答		0	
二 (3)	・「運(ぶ)」と解答しているもの	1◎	
	・上記以外の解答	9	
	・無解答	0	

2 解答類型

A 主として「知識」に関する問題

調査問題一覧表 【小学校国語】
B 主として「活用」に関する問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式		
			聞話 くす ここ とと	書 く こ と	読 む こ と	言語 語 事 項	国語 への 意欲 ・ 態度	話 す ・ 聞 く 能 力	書 く 能 力	読 む 能 力	言語 理解 ・ 技能	選 択 式	短 答 式
1	一 報告文を読み、メモの中に調べた内容の1つめを書く	調べる内容を見通して、必要な事柄を整理する		○				○				○	
	二 報告文のまとめとして、調べて分かったことを書く	目的や意図に応じて、事象や意見などを関係付けながら書く		○			○						○
2	一 話し合いの中で出された意見を二つの立場に分ける	話し手の立場や意図をとらえて聞く	○				○				○		
	二 「そうじや整とんによく取り組んでいる」とする立場から自分の考えを発表する	自分の立場や意図を明確にして話し合う	○				○	○					○
3	一 説明文の冒頭部分を読んで、書き方の工夫として適切な内容を選択する	筆者の表現の工夫に着目して読む			○					○		○	
	二(1) 筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりして書く	目的や意図に応じて、自分の考えをまとめる			○		○			○			○
	二(2)				○		○			○			○
4	一 作戦カードをもとに、ボールを渡す順番を整理する	目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出す	○				○					○	
	二ア 作戦カードをもとに、チームの攻め方を説明する	目的や意図が伝わるように話の組立てを工夫しながら説明する	○			○	○			○			○
	二イ		○			○	○			○			○

調査問題一覧表 【小学校国語】
A 主として「知識」に関する問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等					評価の観点				問題形式		
			聞話	書	読	言	関	話	書	読	知	選	短	記
			くす	く	む	語	心	す	く	む	言	択	答	述
			こ	こ	こ	事	語	・	能	能	語	式	式	式
			と	と	と	項	への	間	力	力	につ			
			と	と	と		意	く			いて			
			と	と	と		欲	能			ての			
			と	と	と		・	力			能の			
			と	と	と		態							
			と	と	と		度							
1	一(1)	漢字を読む(駅は混雑している)				○					○		○	
	一(2)	漢字を読む(春から夏へ季節が移る)				○					○		○	
	一(3)	漢字を読む(めずらしい植物を採集する)				○					○		○	
	二(1)	漢字を書く(びょういんに行く)				○					○		○	
	二(2)	漢字を書く(人の意見にさんせいする)	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読む				○				○		○	
	二(3)	漢字を書く(重い石をはこぶ)				○					○		○	
2	1	ローマ字で書く(くすり)				○					○		○	
	2	ローマ字で書く(たべもの)	ひらがなで表記されたものをローマ字で書く				○				○		○	
	3	ローマ字を読む(happa)	ローマ字で表記されたものを正しく読む				○				○		○	
3		はがきの表書きに必要な事柄を選択する	はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書く		○					○				
4	ア			○						○		○		
	イ	実験報告文の小見出しとして適切なものを選択する	文章の内容に合わせて、小見出しを書く		○					○		○		
	ウ			○						○		○		
5		文章の表現の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	文学的文章の表現の工夫をとらえる			○	○			○	○	○		
6		図鑑を読んで必要な内容をとらえる	段落の内容を的確にとらえる			○				○			○	
7		司会の進め方の良いところを説明する	司会の役割や働きをとらえて、話し合いを計画的に進める	○				○	○				○	
8		接続語を使って一文を二文に分けて書く	文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く				○				○		○	
9		毛筆の下書きについて書き直す内容を書く	文字の大きさや配列に注意して書く				○				○		○	

1 調査問題一覧表

(SOY INK)

本書の一部または全部を無断で転載、複製することを禁じます。